
宝塚市
在宅介護実態調査
報告書

令和3年3月

目次

I 調査概要.....	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 前回調査について	1
(4) 留意点	1
II 総括.....	2
(1) 在宅生活の継続を考えている人	2
(2) 介護者が不安に感じる介護とサービス利用の関係	2
(3) 主な介護者の就労状況と今後の就労継続見込み	2
(4) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス	3
(5) 在宅生活における医療ニーズへの対応	3
III 調査結果.....	4
1. 回答者の属性	4
(1) 調査対象者本人の属性	4
(2) 回答者	5
(3) 世帯類型	5
(4) 現在抱えている傷病	6
2. 親族による介護	7
(1) 介護の頻度	7
(2) 介護者の属性	8
(3) 介護の内容	11
(4) 介護離職	13
3. 支援・サービス	18
(1) 介護保険サービス	18
(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス	20
(4) 施設等への入所・入居の検討状況	22
(5) 訪問診療の利用状況	22
4. 認定データを使用した集計	23
(1) 在宅限界点向上のための支援・サービスの提供体制の検討	23
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	31
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	37
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	43
(5) 医療ニーズのある在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	47
(6) 家族介護に対する支援・サービスの提供体制の検討	51

I 調査概要

(1) 調査目的

令和3年度から令和5年度までの「宝塚市高齢者福祉計画・第8期宝塚市介護保険事業計画」策定にあたり、在宅で介護を受けている高齢者に対して、「介護離職の防止」、「在宅生活の継続」、「介護と仕事の両立」という観点から、介護の状況やサービスの利用意向などの実態を調査し計画策定における基礎的な資料を作成するために実施しました。

(2) 調査の実施について

調査種類	在宅介護実態調査
対象者	宝塚市内にお住まいで、在宅で介護を受けている高齢者 618 人 (要介護認定の更新、区分変更申請をされた方)
実施期間	令和元年 12 月～令和 2 年 3 月
実施方法	認定調査員による聞き取り（悉皆調査）

(3) 前回調査について

調査種類	在宅介護実態調査
対象者	宝塚市内にお住まいで、在宅で介護を受けている高齢者 620 人 (要支援、要介護認定の更新、区分変更申請をされた方)
実施期間	平成 29 年 4 月～平成 29 年 6 月
実施方法	認定調査員による聞き取り（悉皆調査）

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中に MA（＝いくつでも回答可）、3LA（＝3つまで回答可）と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. クロス集計については、厚労省が推奨する在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト（三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社作成）を用いて、回答結果と認定データを突合・集計しています。なお、認定データがない場合や調査票の設問に無回答であった場合を除いた集計となっています。

Ⅱ 総括

(1) 在宅生活の継続を考えている人

- 施設等への入所・入居の検討状況について、全体では8割以上の人が検討していないと回答しています。また、一般的に施設ニーズの高い要介護3以上の重度な要介護者では6割、単身世帯では8割以上の人が検討していないと回答しています。これらの人に対する在宅生活継続のための支援が必要と考えられます。

(2) 介護者が不安に感じる介護とサービス利用の関係

- 介護者が不安に感じる介護について、要介護度別にみると、要支援1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「食事の準備（調理等）」、要介護1・2では「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、要介護3以上では「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が多くなっています。介護者不安の側面からみた場合の在宅限界点に影響を与える要素といえるため、これらに係る介護不安をいかに軽減していくかが、在宅限界点の向上を図るためのポイントになると考えられます。
- 要介護3以上の人に限って、訪問系サービスの利用状況別に不安に感じる介護をみると、訪問系サービスの利用回数が増えるにつれて、先述の不安に感じる介護のうち、「屋内の移乗・移動」を不安に感じる人が少なくなっています。ほかにも、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」も同様の傾向がみられます。在宅での生活に、介護職・看護職等の目が多く入ることにより、在宅での生活環境の改善や介護者の不安の軽減につながっている可能性が考えられます。一方で、日中・夜間の排泄については、サービスの利用状況によらず不安に感じる人が多くみられるため、介護者の不安の解消が課題となっています。

(3) 主な介護者の就労状況と今後の就労継続見込み

- 主な介護者の就労状況について、調査対象者本人の世帯類型別にみると、フルタイム勤務の人では、本人が単身世帯である人が約5割となっています。本人の要介護度別にみると、パートタイム勤務の人では、本人が要介護3以上である人が約3人に1人となっています。介護保険サービスの利用状況別にみると、フルタイム勤務の人では、訪問系サービスの利用が約5割と、他の就労状況の人と比較しても多くなっています。
- 今後の仕事と介護の両立にあたり、勤め先からあれば効果的だと思う支援について、就労継続が困難と感じている人では、介護休業・介護休暇等の制度の充実、介護をしている従業員への経済的な支援が多くなっています。
- 訪問系サービスを含む組み合わせでの利用と、職場における介護休暇や経済的支援等の制度の整備により、在宅生活継続の可能性が高まると考えられます。

(4) 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

- 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、世帯類型別にみると、単身世帯の軽度な要介護者や、夫婦のみ世帯の重度な要介護者、その他世帯では要介護度によらず、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多くなっています。このような外出に係る支援・サービスは、買い物やサロンへの参加など、他の支援・サービスとの関係も深いことから、外出に係る支援・サービスの充実は大きな課題であるといえます。
- 介護保険サービスの利用状況について、単身世帯では、他の世帯類型と比較すると訪問系サービスの利用が多く、要介護度が高くなるにつれて多くなる傾向がみられます。要介護度の重度化に伴い、訪問系サービスを利用していくことで、在宅生活の継続を可能にしていると考えられます。
- 夫婦のみ世帯、その他の世帯でも、要介護度が高くなるにつれて訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられますが、単身世帯と比較すると、「通所系・短期系のみ」の利用が多くなっています。配偶者等の介護者のレスパイトケアの必要性が高いことから、そうした機能を持つ通所系・短期系も組み合わせた利用が多くなっていると考えられます。一方で、介護保険サービスを利用していない人も単身世帯と比較すると多く、その他の世帯では、要介護3以上で1割以上となっています。家族が介護するため、介護保険サービスは必要ないという人もみられますが、要介護者が70歳代以下の場合、同世代の介護者が多くなっていることから、特に夫婦のみ世帯については、介護負担の偏り等に配慮する必要があります。

(5) 在宅生活における医療ニーズへの対応

- 主な介護者が現在「医療面での対応」を行っている人は、重度な要介護者や、単身世帯の人で多くなっています。
- 訪問診療を利用している人は要介護度が高くなるにつれて多くなる傾向がみられ、要介護3では約3割、要介護4では約4割、要介護5では約6割となっています。また、要介護3以上で訪問診療を利用している人では、訪問系サービスを利用している人が約9割となっており、重度な要介護者は、訪問系サービスと訪問診療を併せて利用することにより、医療ニーズに対応していると考えられます。
- 今後、中重度者が増加するとそれに伴い「介護と医療の両方のニーズを持つ在宅療養者」の増加が予想されます。いかに適切なサービス提供体制を確保していくかが重要な課題であると考えられます。

Ⅲ 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 調査対象者本人の属性

単位：％

		母数 (n)	要介護度								非該当認定	認定データなし
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5			
全体		618	18.6	18.3	22.8	15.9	10.5	4.9	6.6	0.5	1.9	
性別	男性	217	18.9	14.3	28.6	16.6	8.8	5.1	7.4	0.5	—	
	女性	389	19.0	21.1	20.3	15.9	11.8	4.9	6.4	0.5	—	
	不明	12	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	
年齢	65歳未満	9	—	—	11.1	33.3	—	11.1	33.3	—	—	
	65～69歳	21	4.8	28.6	28.6	14.3	—	19.0	4.8	—	—	
	70～79歳	135	25.2	17.0	24.4	13.3	10.4	5.2	3.0	1.5	—	
	80～89歳	328	19.8	19.5	23.5	17.1	10.4	3.4	6.1	0.3	—	
	90歳以上	113	12.4	17.7	21.2	15.9	15.0	6.2	11.5	—	—	
	不明	12	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	
性・年齢	男性	65歳未満	5	—	—	—	40.0	—	20.0	20.0	—	—
		65～69歳	9	—	22.2	33.3	11.1	—	22.2	11.1	—	—
		70～79歳	55	18.2	12.7	30.9	16.4	14.5	3.6	1.8	1.8	—
		80～89歳	120	20.0	15.0	28.3	17.5	6.7	4.2	8.3	—	—
		90歳以上	28	21.4	14.3	28.6	10.7	10.7	3.6	10.7	—	—
	女性	65歳未満	4	—	—	25.0	25.0	—	—	50.0	—	—
		65～69歳	12	8.3	33.3	25.0	16.7	—	16.7	—	—	—
		70～79歳	80	30.0	20.0	20.0	11.3	7.5	6.3	3.8	1.3	—
		80～89歳	208	19.7	22.1	20.7	16.8	12.5	2.9	4.8	0.5	—
		90歳以上	85	9.4	18.8	18.8	17.6	16.5	7.1	11.8	—	—
	不明	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0

※二次判定結果に基づく集計。

(2) 回答者

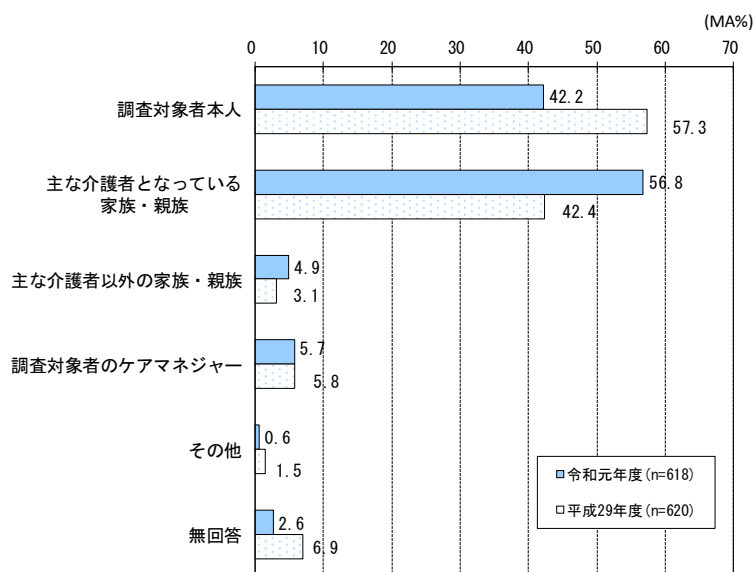
●A 票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか（複数回答）

【全体】

「主な介護者となっている家族・親族」が 56.8%で最も多く、次いで「調査対象者本人」が 42.2%となっています。

前回と比較すると、調査対象者本人が少なく、主な介護者となっている家族・親族が多くなっています。

【回答者】



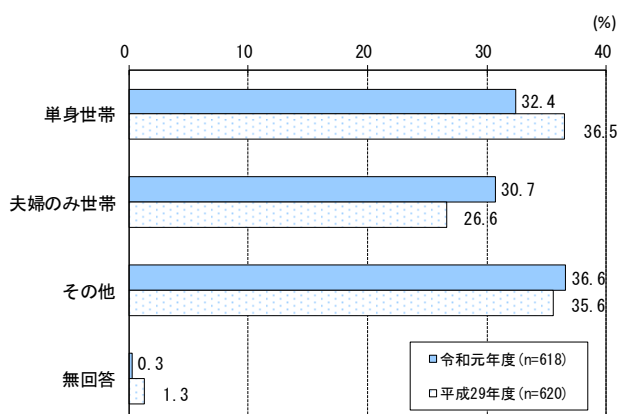
(3) 世帯類型

●A 票 問1 世帯類型について、ご回答ください

【全体】

「単身世帯」が 32.4%、「夫婦のみ世帯」が 30.7%、「その他」が 36.6%となっています。

【世帯類型】



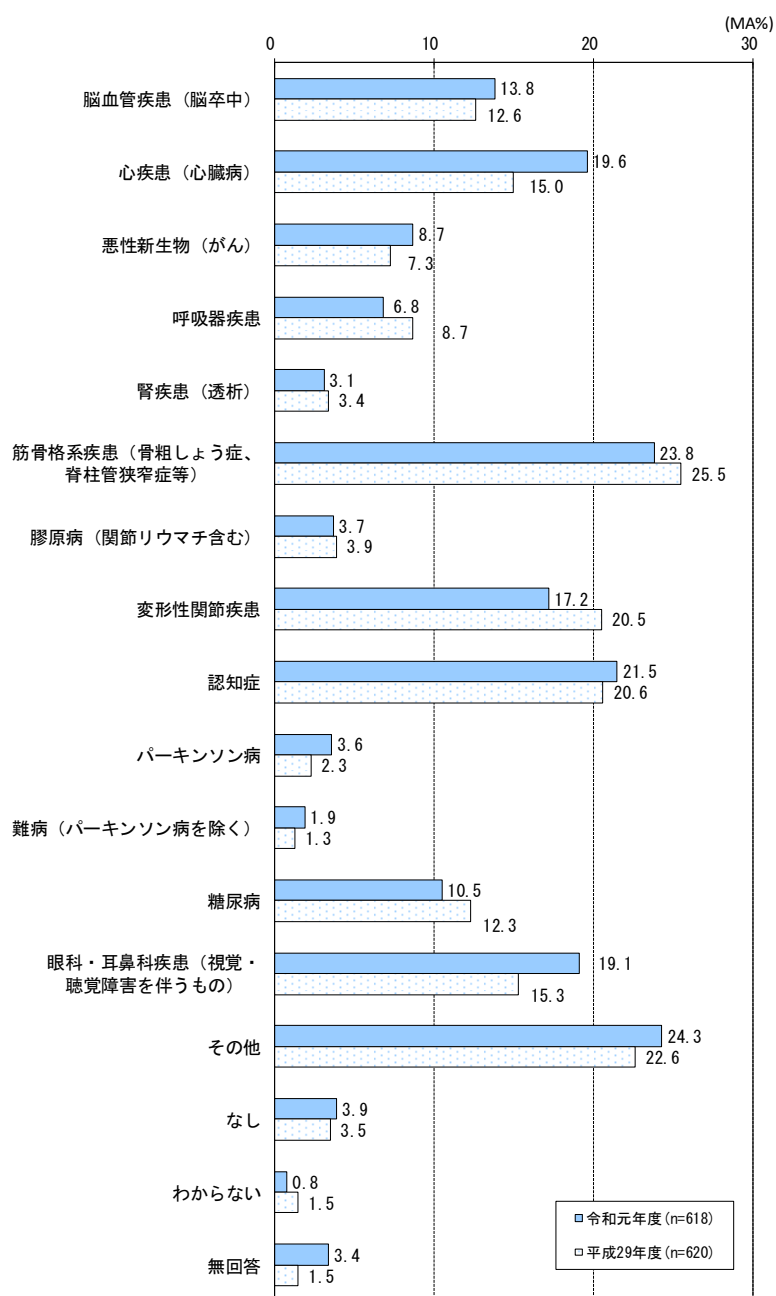
(4) 現在抱えている傷病

●A 票 問 11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数回答）

【全体】

「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊椎管狭窄症等）」が 23.8%で最も多く、次いで「認知症」が 21.5%、「心疾患（心臓病）」が 19.6%となっています。

【現在抱えている傷病】



2. 親族による介護

(1) 介護の頻度

- A 票 問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

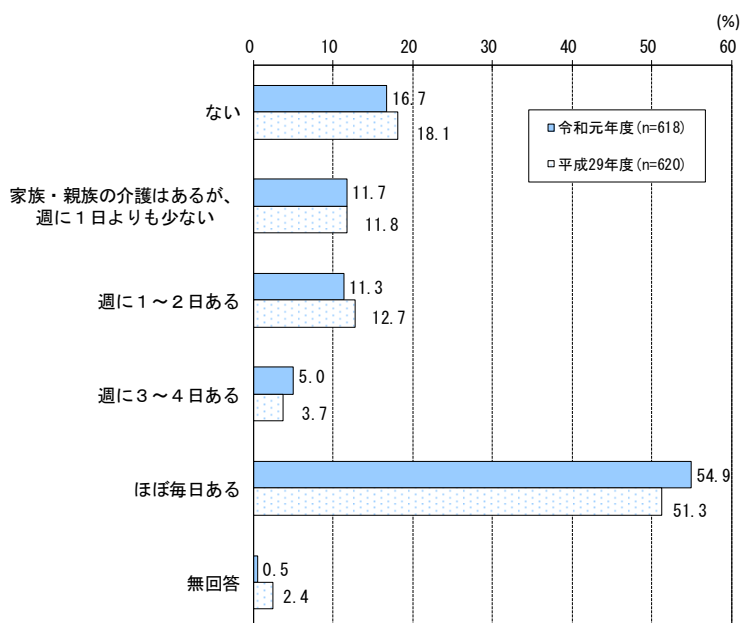
【全体】

「ほぼ毎日ある」が54.9%で最も多く、次いで「ない」が16.7%、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」が11.7%となっています。

“家族・親族の介護がある”は82.9%となっています。

前回と比較すると、家族・親族の介護頻度が高い人が多くなっています。

【家族・親族からの介護の頻度】



(2) 介護者の属性

① 主な介護者

A票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

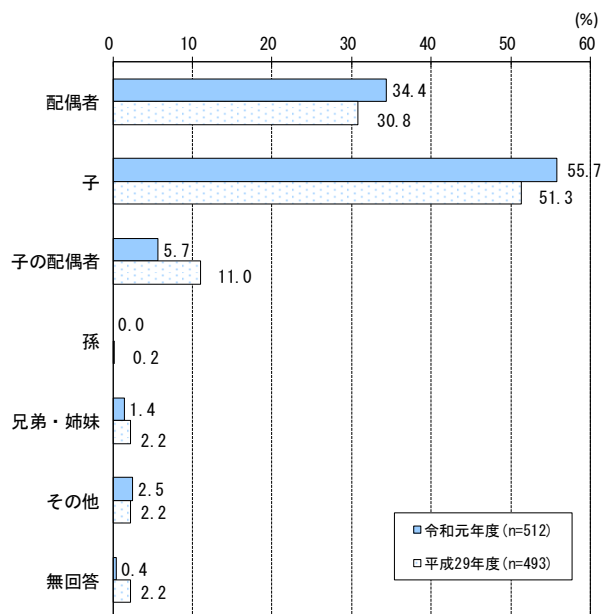
●A票 問3 主な介護者の方は、どなたですか

【全体】

「子」が55.7%で最も多く、次いで「配偶者」が34.4%、「子の配偶者」が5.7%となっています。

前回と比較すると、「配偶者」、「子」が多くなっています。

【主な介護者】



② 介護者の性別

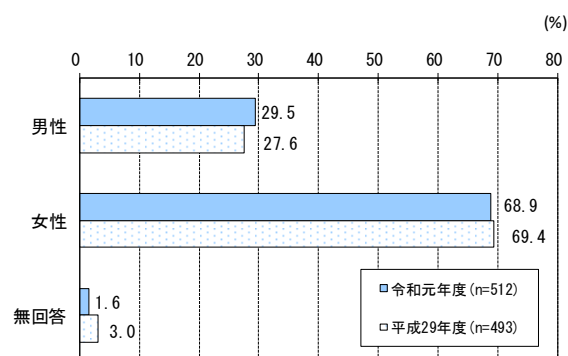
A 票 問 2 で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

●A 票 問 4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください

【全体】

「男性」が 29.5%、「女性」が 68.9%となっています。

【主な介護者の性別】



③ 介護者の年齢

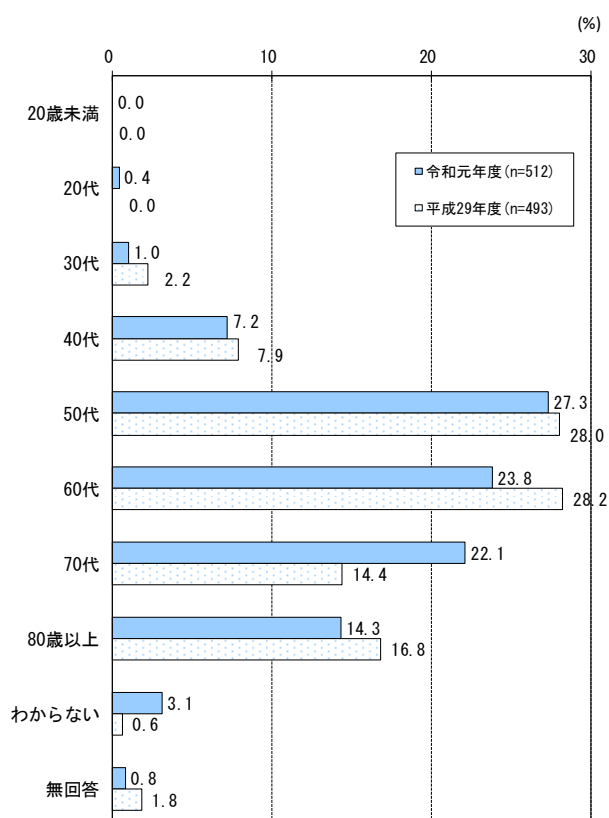
A 票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

●A 票 問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください

【全体】

「50代」が27.3%で最も多く、次いで「60代」が23.8%、「70代」が22.1%となっています。
前回と比較すると、「50代」「60代」が少なく、「70代」が多くなっています。

【主な介護者の年齢】



(3) 介護の内容

① 現在行っている介護

A 票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

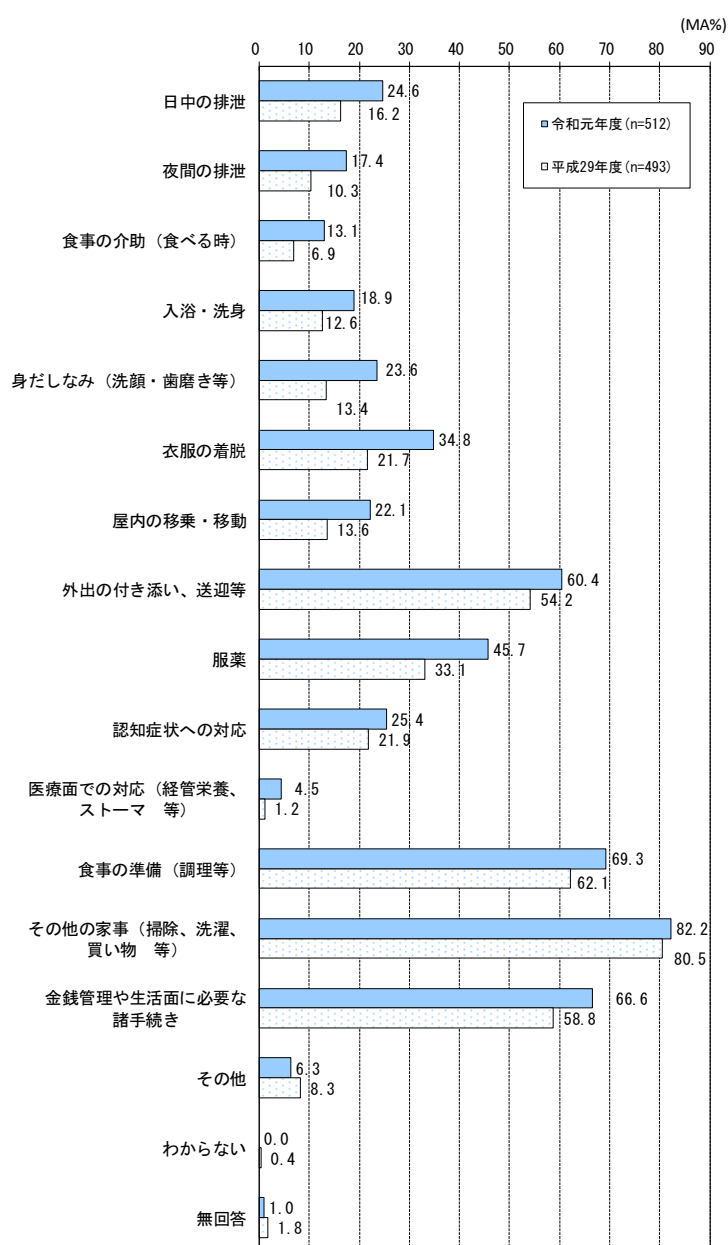
●A 票 問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数回答）

【全体】

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が82.2%で最も多く、次いで「食事の準備（調理等）」が69.3%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が66.6%となっています。

前回と比較すると、全体的に多くなっています。

【現在行っている介護】



② 不安に感じる介護

A票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

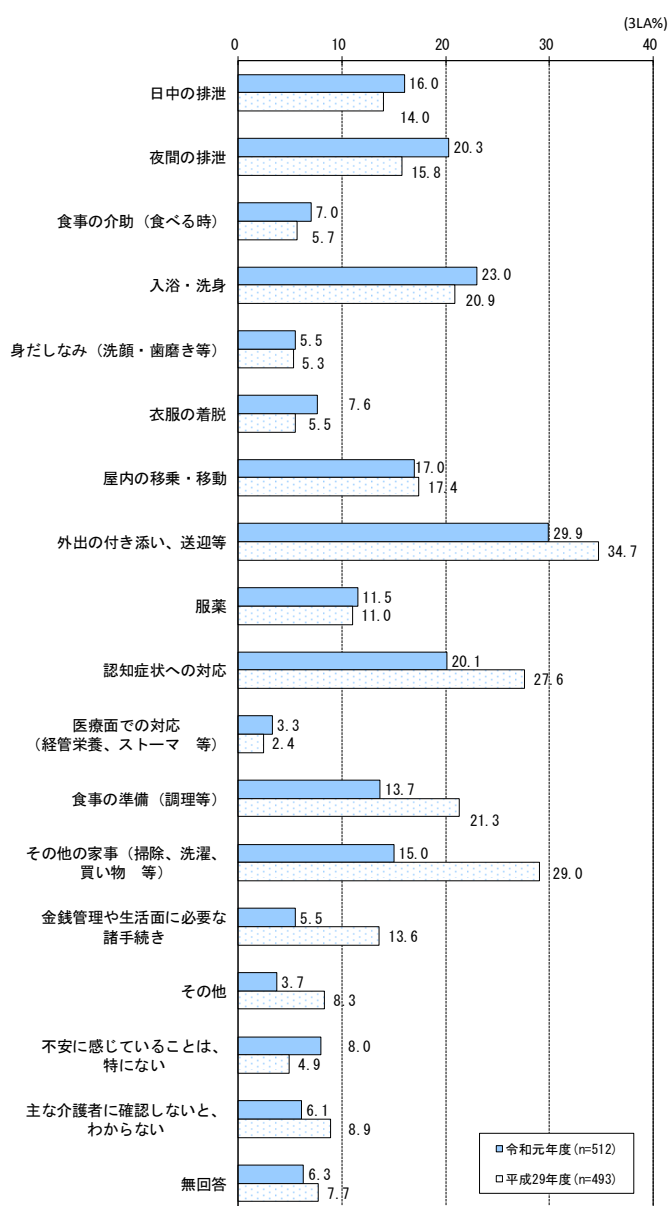
●B票 問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

【全体】

「外出の付き添い、送迎等」が29.9%で最も多く、次いで「入浴・洗身」が23.0%、「夜間の排泄」が20.3%となっています。

前回と比較すると、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」等で増えていますが、「不安に感じていることは、特にない」も多くなっています。

【不安に感じる介護】



(4) 介護離職

① 介護離職者の有無

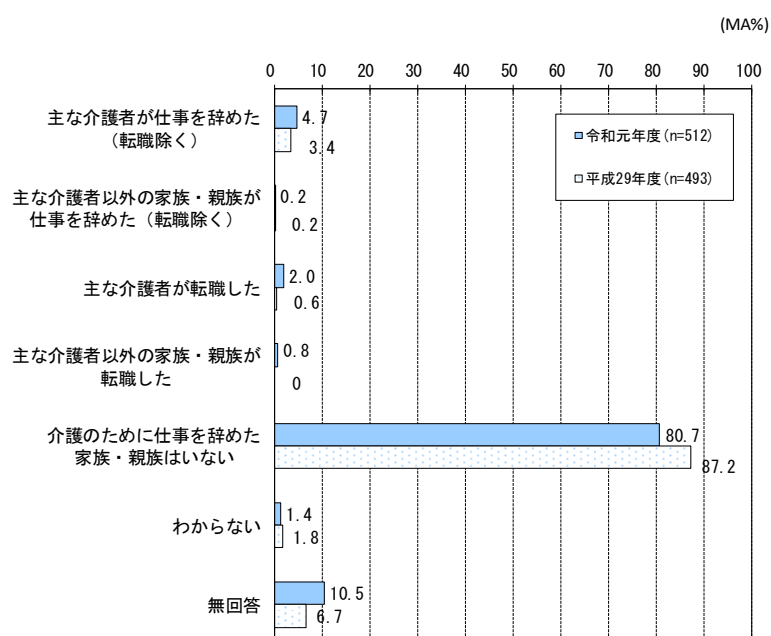
A票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

- A票 問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数回答）

【全体】

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が80.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が4.7%、「主な介護者が転職した」が2.0%となっています。

【介護離職の有無】



② 主な介護者の就労状況

A票 問2で「2.」～「5.」と回答した方にお伺いします。

●B票 問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください

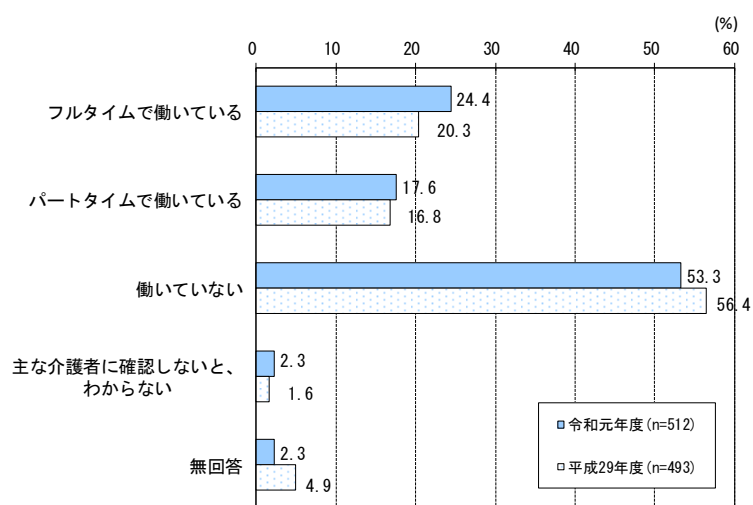
【全体】

「働いていない」が53.3%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が24.4%、「パートタイムで働いている」が17.6%となっています。

“働いている”は42.0%となっています。

前回と比較すると、「働いていない」が少なく、“働いている”が多くなっています。

【主な介護者の就労状況】



③ 働き方の調整

B票 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

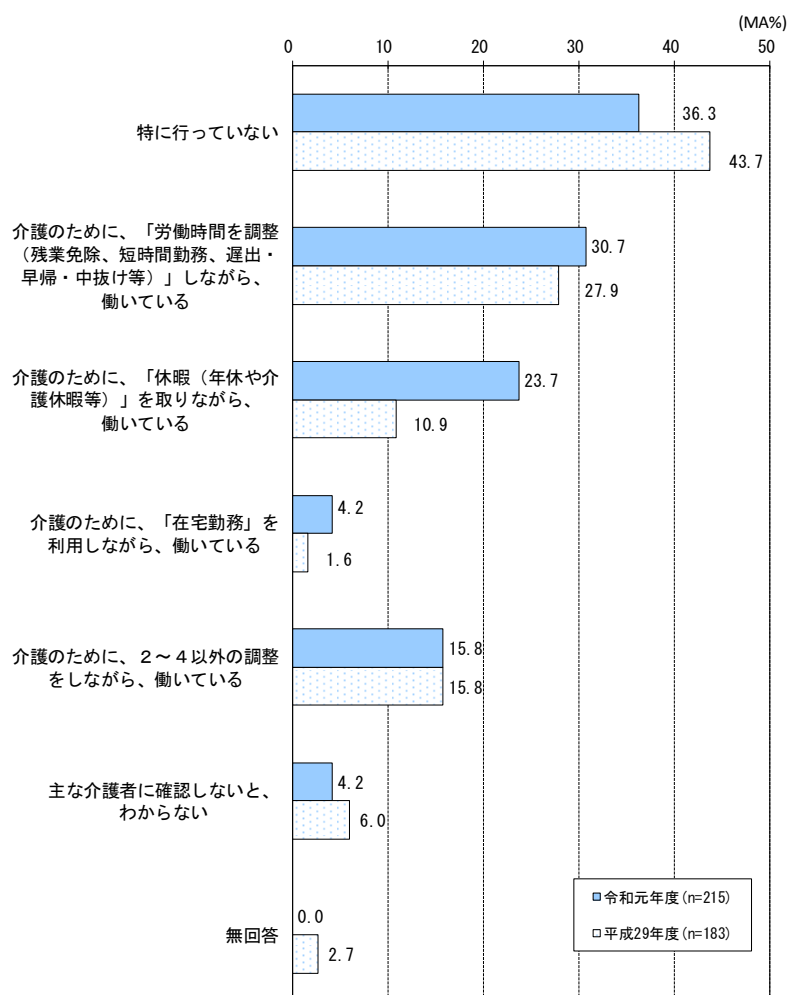
●B票 問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数回答）

【全体】

「特に行っていない」が36.3%で最も多く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が30.7%、「介護のために、「休暇（年次や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が23.7%となっています。

前回と比較すると、「特に行っていない」が少なく、調整を行っている人が多くなっています。

【働き方の調整】



④ 勤め先からの必要な支援

B票 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

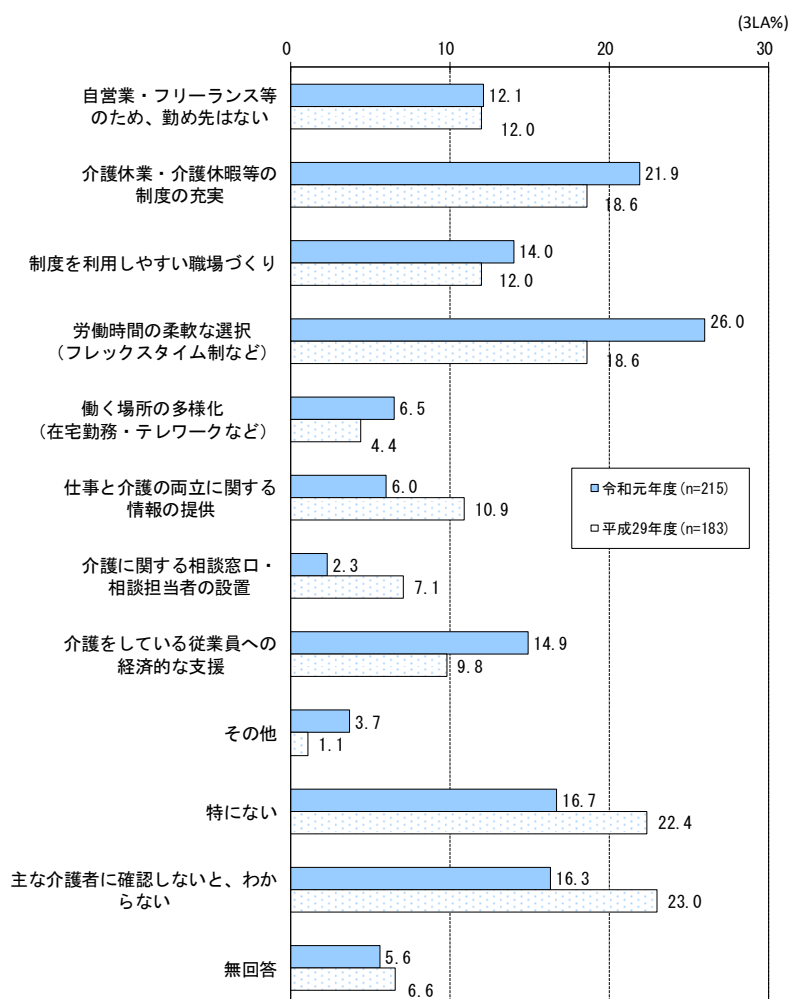
●B票 問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

【全体】

「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が26.0%で最も多く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が21.9%、「特にない」が16.7%となっています。

前回と比較すると、「特にない」が少なく、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」「介護をしている従業員への経済的な支援」等が多くなっています。

【勤め先から必要な支援】



⑤ 今後の介護と仕事の両立

B票 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

●問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか

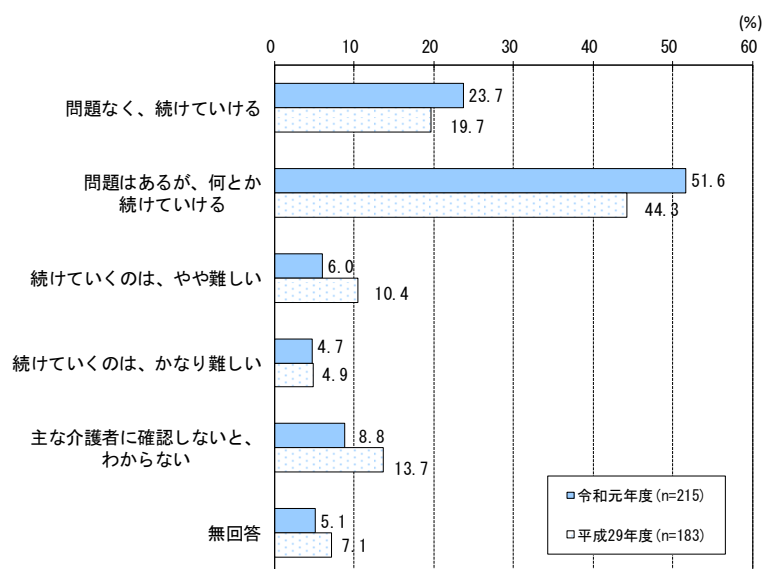
【全体】

「問題はあるが、何とか続けていける」が51.6%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が23.7%となっています。

“続けていくのは、難しい”は10.7%となっています。

前回と比較すると、続けていける人が多くなっています。

【今後の就労継続見込み】



3. 支援・サービス

(1) 介護保険サービス

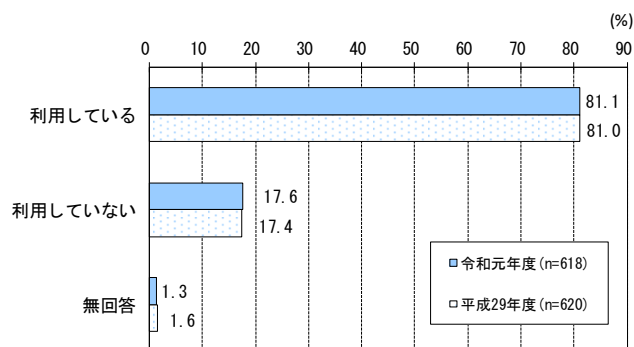
① 介護保険サービスの利用状況

- A 票 問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか

【全体】

「利用している」が81.1%、「利用していない」が17.6%となっています。

【介護保険サービスの利用有無】



② 介護保険サービスを利用していない理由

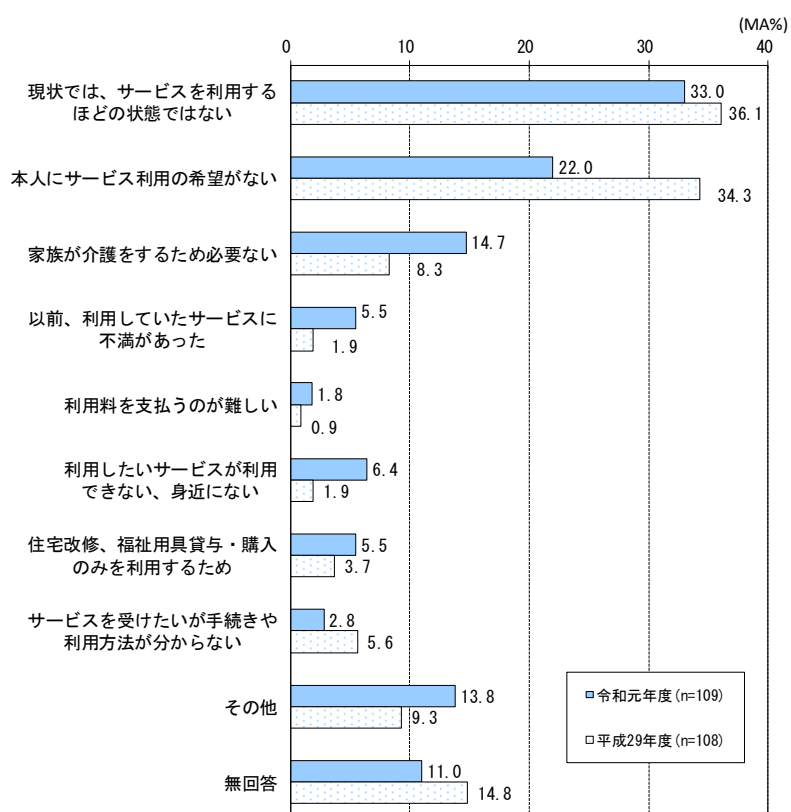
A 票 問 13 で「2.」を回答した場合は、問 14 も調査してください。

●問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数回答）

【全体】

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 33.0%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 22.0%、「家族が介護するため必要ない」が 14.7%となっています。

【介護保険サービスの未利用理由】



(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス

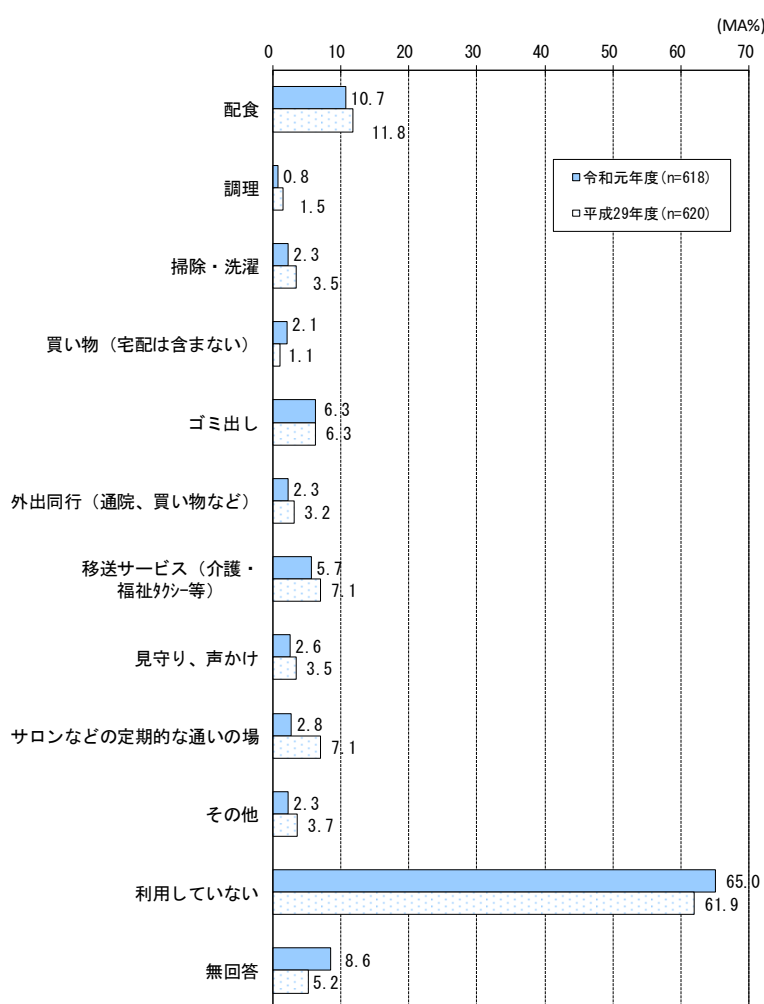
① 介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況

- A 票 問 8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、
ご回答ください（複数回答）

【全体】

「利用していない」が 65.0%で最も多く、次いで「配食」が 10.7%、「ゴミ出し」が 6.3%となっています。

【介護保険サービス以外の支援・サービスの利用状況】



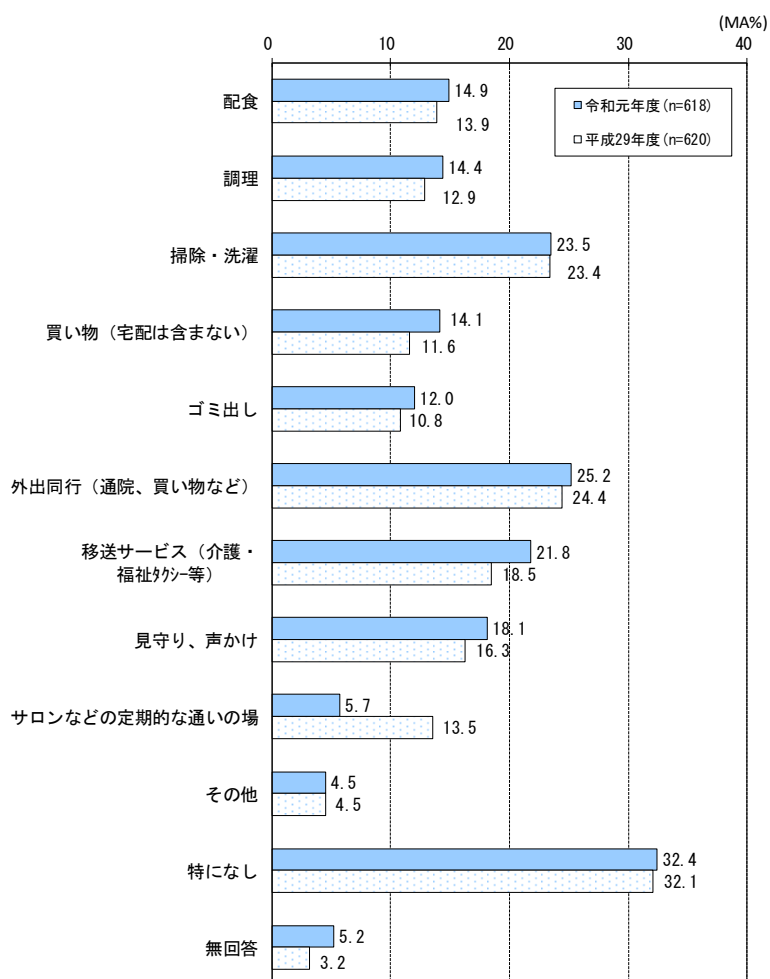
② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

- A 票 問9 今後の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数回答）

【全体】

「特になし」が32.4%で最も多く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が25.2%、「掃除、洗濯」が23.5%となっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス】



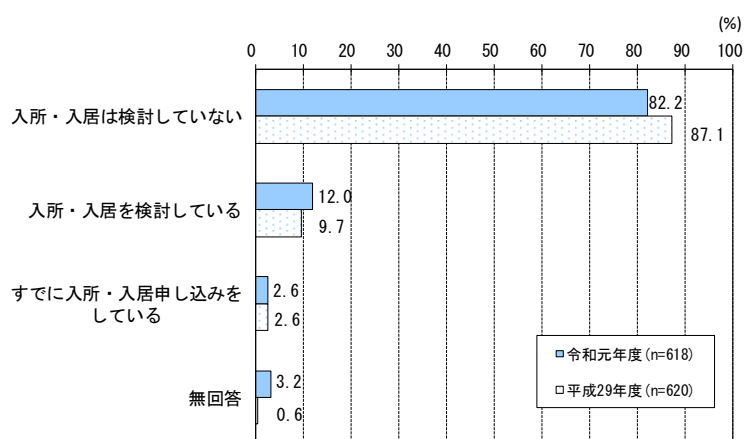
(3) 施設等への入所・入居の検討状況

●A 票 問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください

【全体】

「入所・入居は検討していない」が82.2%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が12.0%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が2.6%となっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】



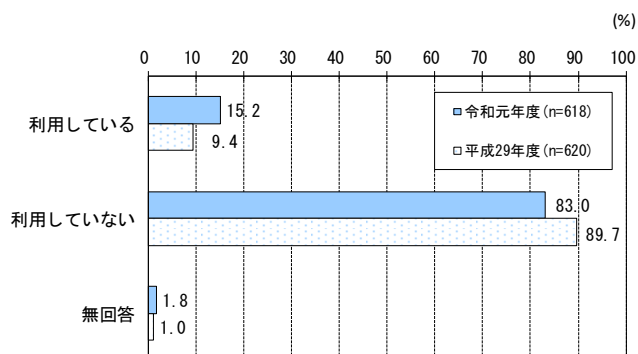
(4) 訪問診療の利用状況

●A 票 問 12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか

【全体】

「利用している」が15.2%、「利用していない」が83.0%となっています。

【訪問診療の利用有無】



4. 認定データを使用した集計

(1) 在宅限界点向上のための支援・サービスの提供体制の検討

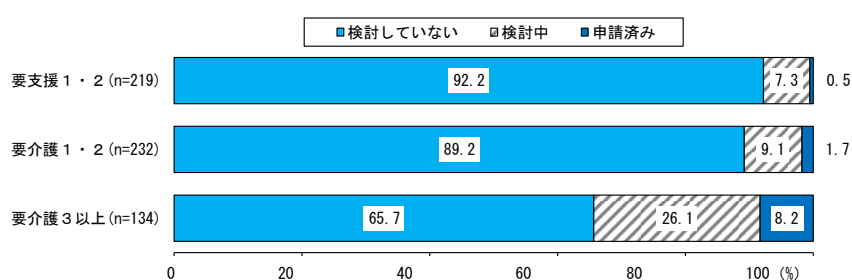
① 施設等への入所・入居の検討状況

●要介護度

【要介護3以上】

「検討していない」が65.7%となっています。

【施設等の検討状況（要介護度別）】

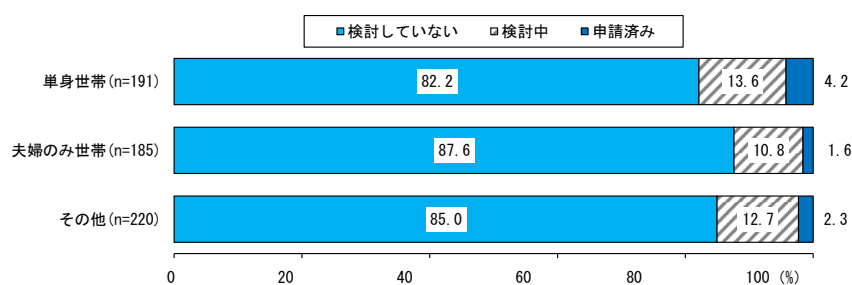


●世帯類型

【単身世帯】

「検討していない」が82.2%となっています。

【施設等の検討状況（世帯類型別）】



② 介護者が不安に感じる介護

●要介護度

【要支援 1・2】

「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「食事の準備（調理等）」が多くなっています。

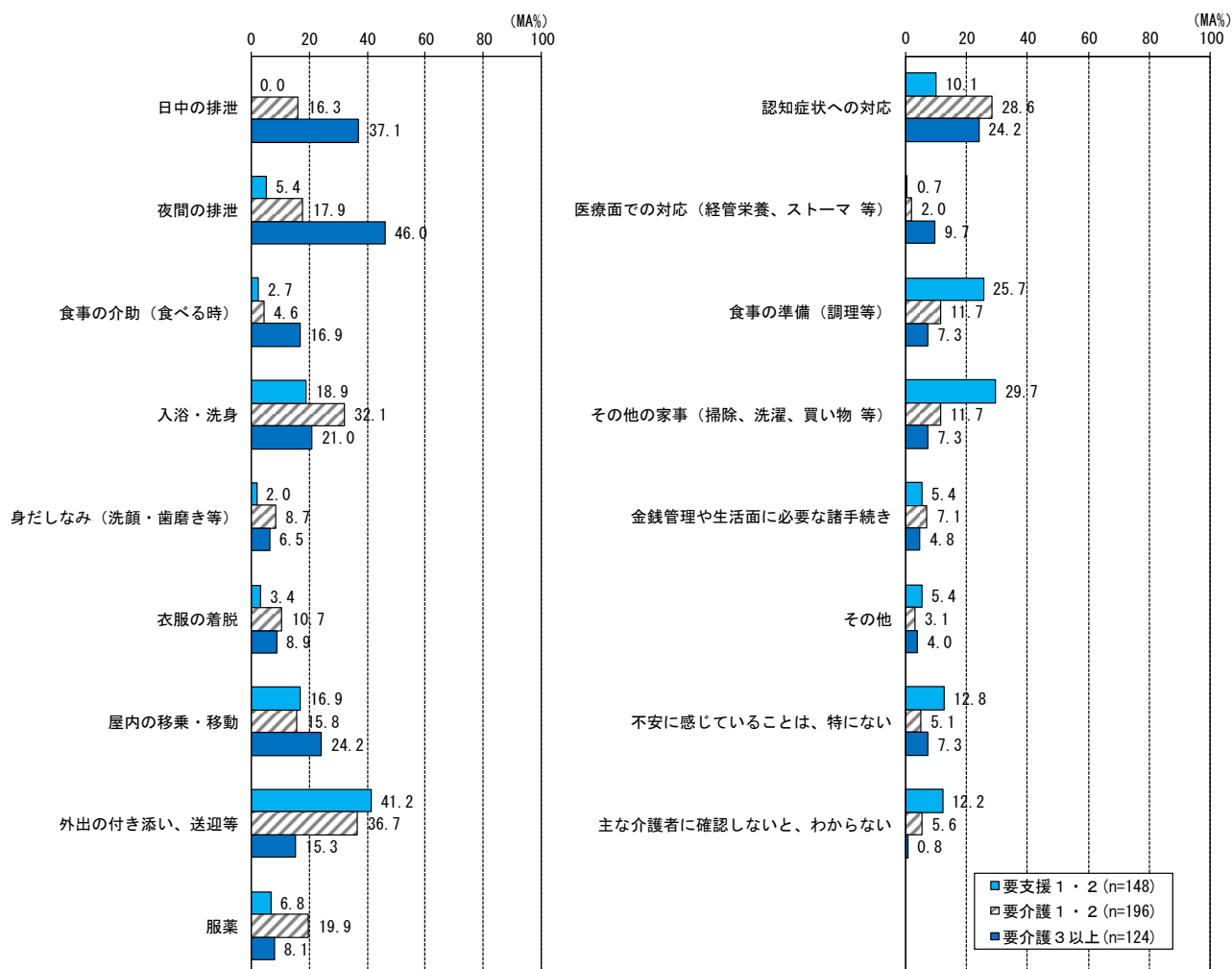
【要介護 1・2】

「外出の付き添い、送迎等」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が多くなっています。

【要介護 3 以上】

「夜間の排泄」、「日中の排泄」、「屋内の移乗・移動」が多くなっています。

【介護者が不安に感じる介護（要介護度別）】

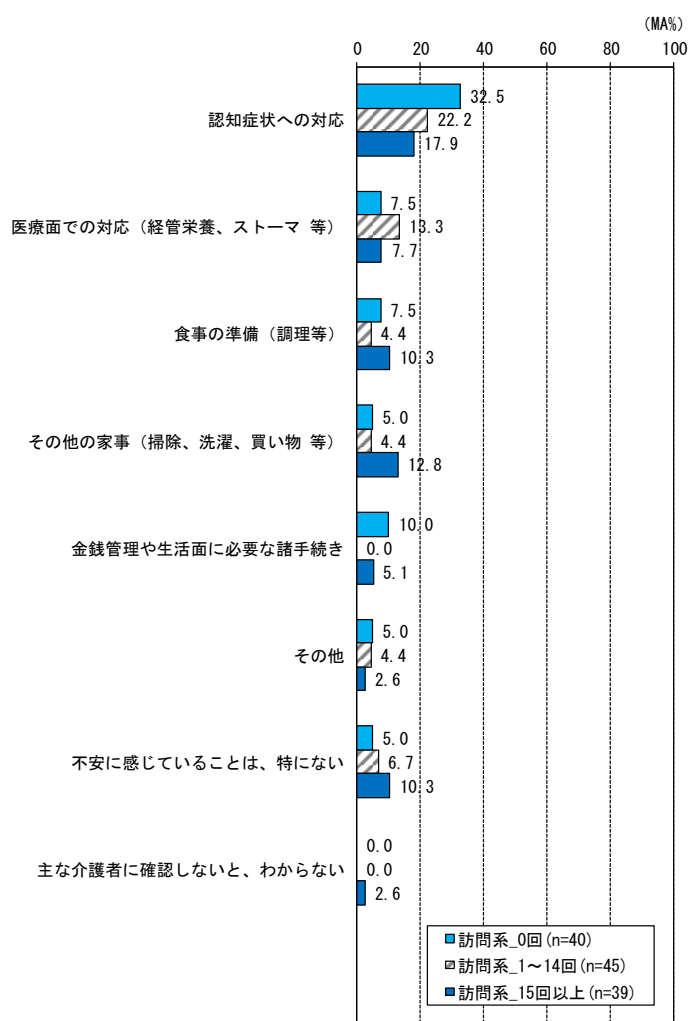
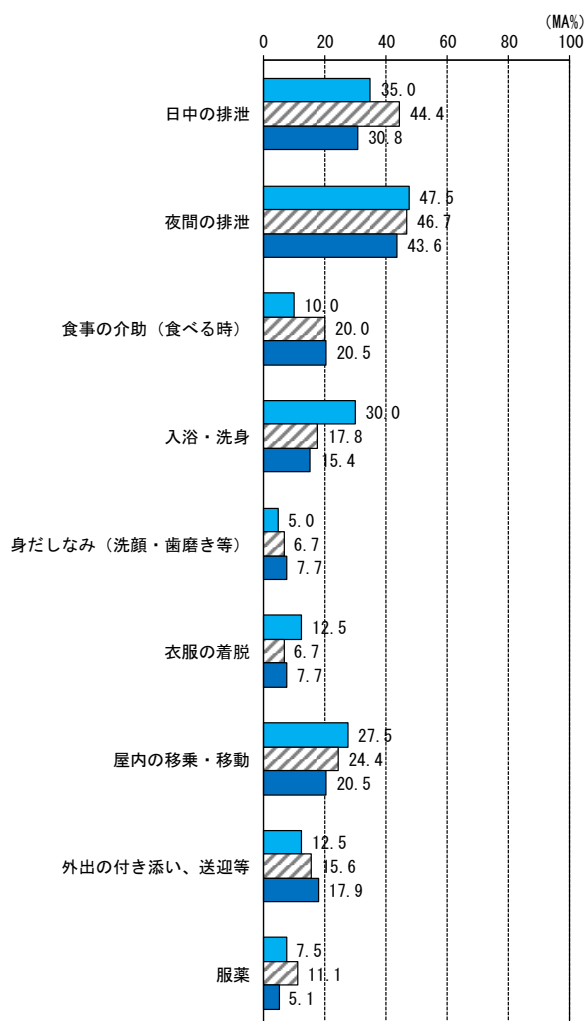


●訪問系サービスの利用状況（要介護3以上）

【全体】

訪問系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（訪問系サービス利用回数別・要介護3以上）】

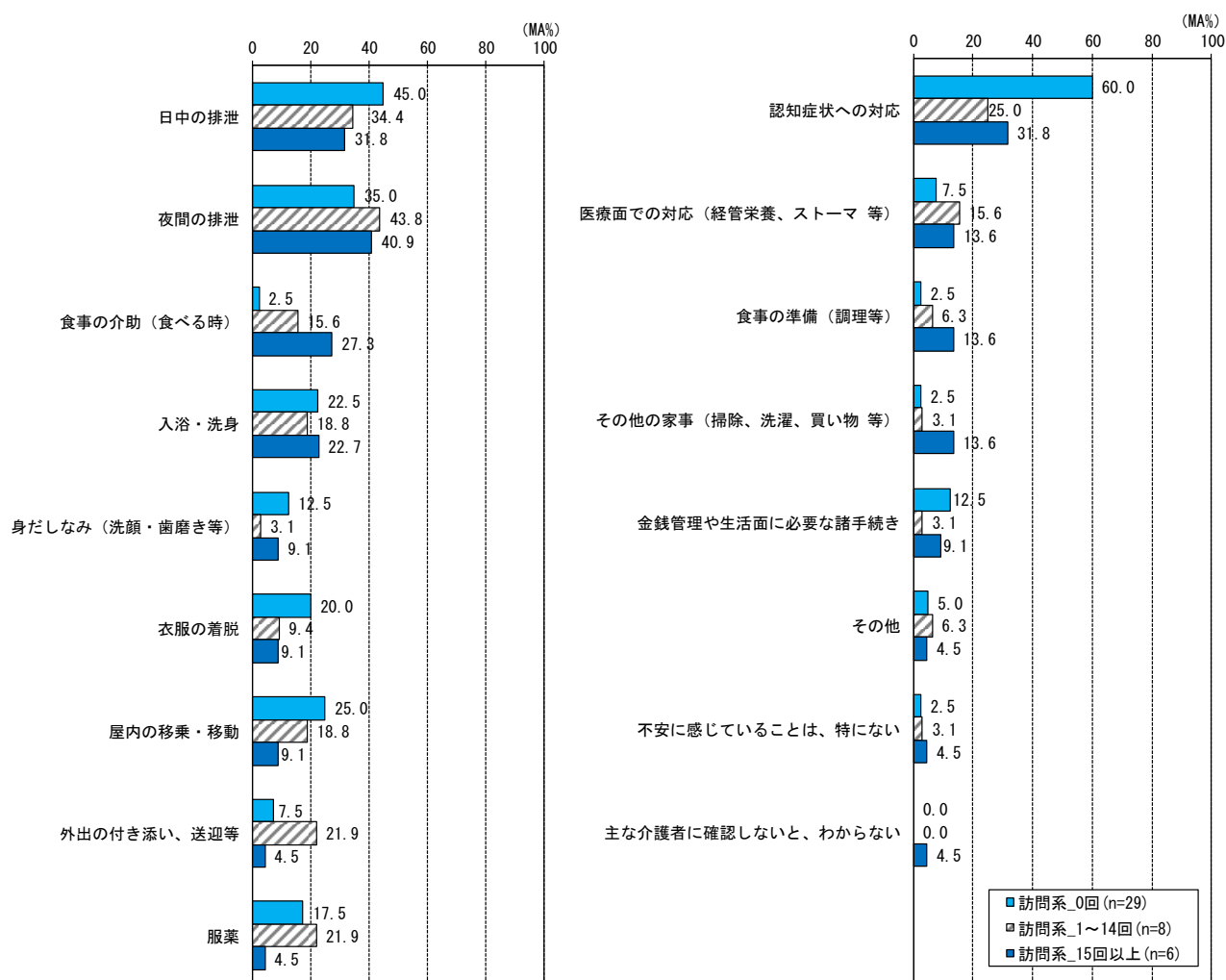


●訪問系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

【全体】

訪問系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「日中の排泄」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（訪問系サービス利用回数別・認知症自立度Ⅲ以上）】



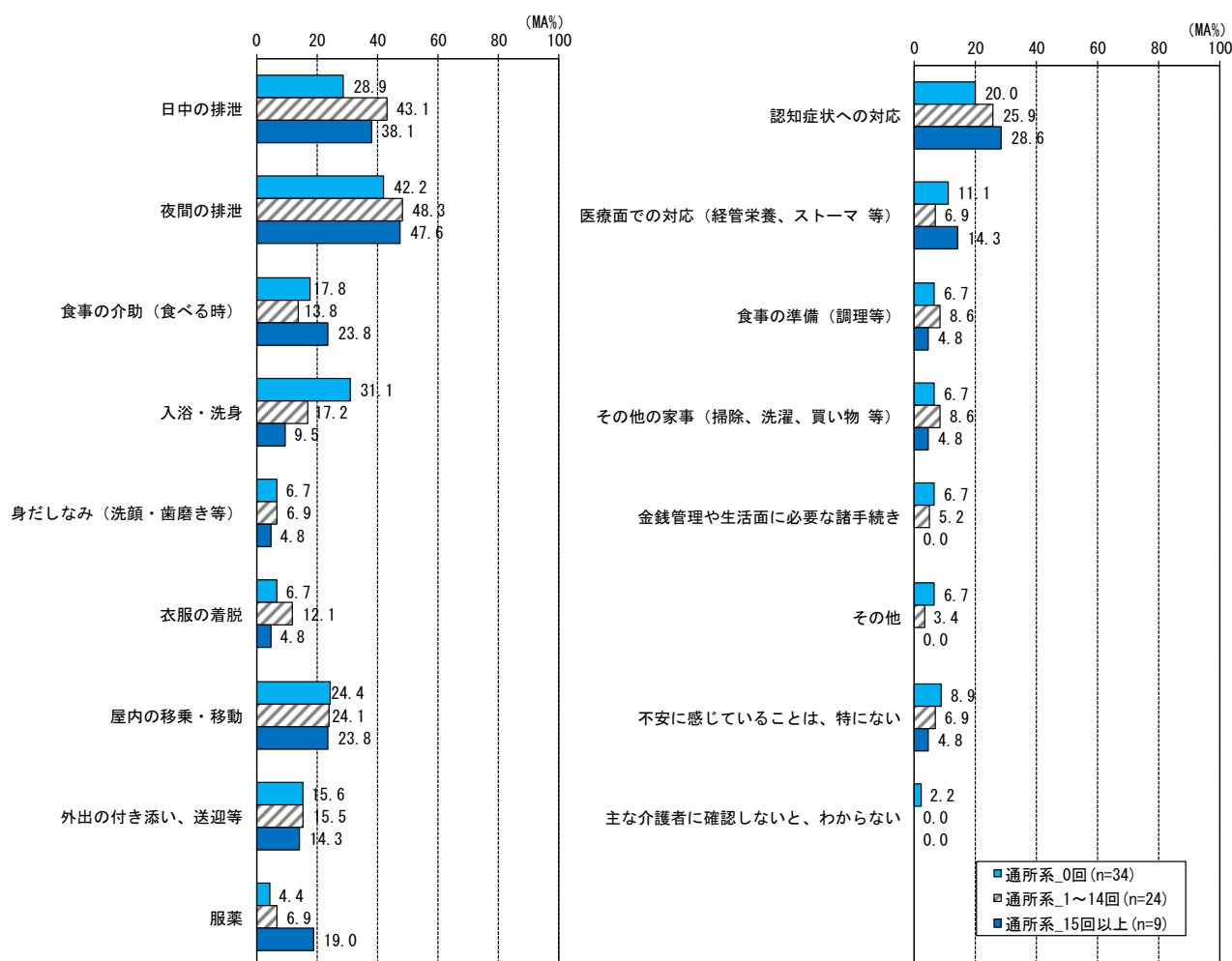
●通所系サービスの利用状況（要介護3以上）

【全体】

通所系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

一方で、「夜間の排泄」、「認知症状への対応」は、不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（通所系サービス利用回数別・要介護3以上）】



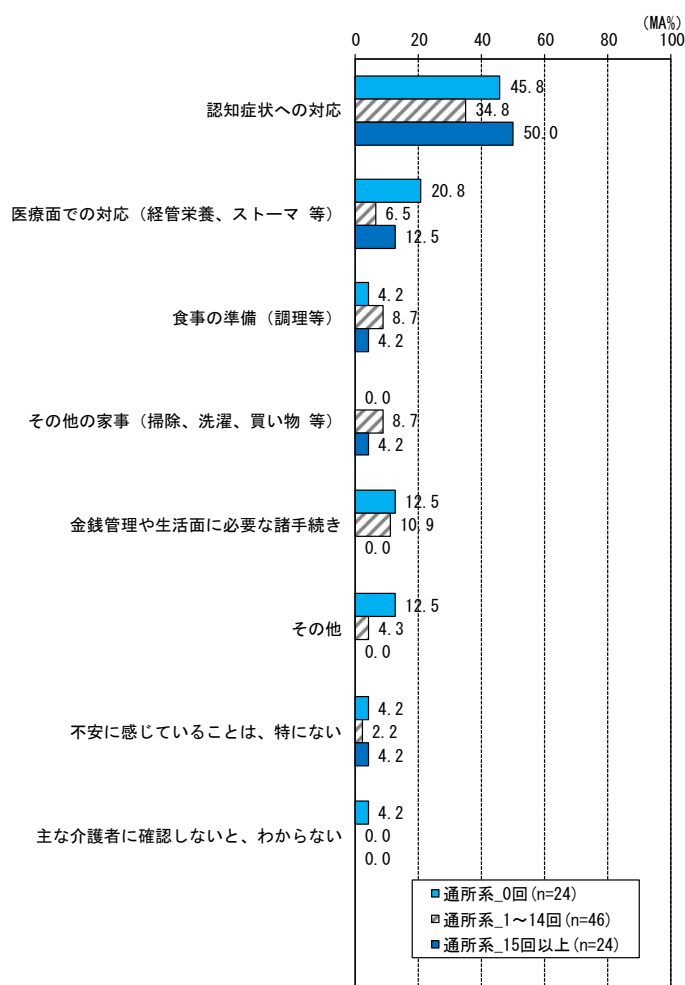
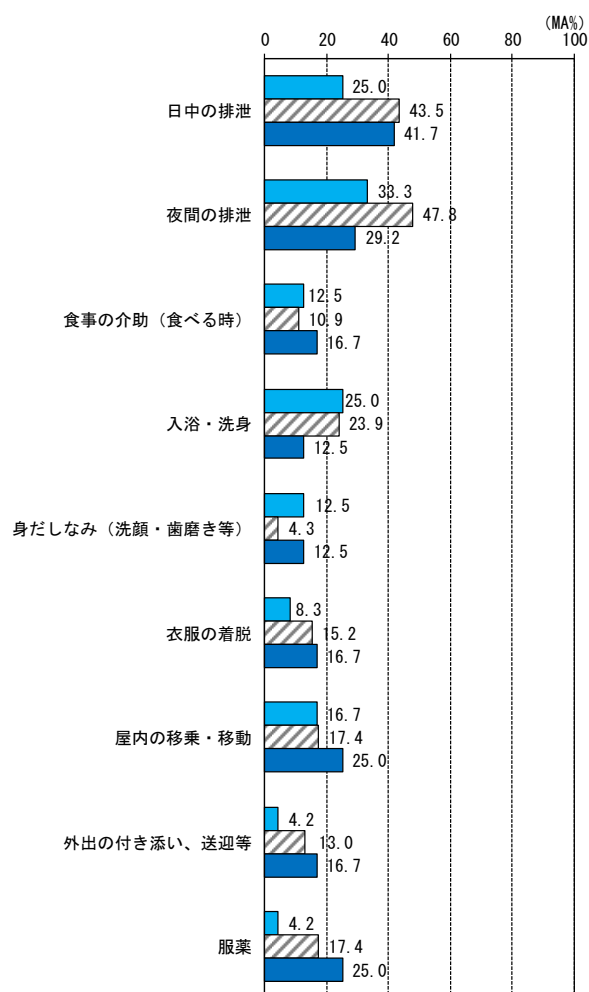
●通所系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

【全体】

通所系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「入浴・洗身」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

一方で、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」は、不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（通所系サービス利用回数別・認知症自立度Ⅲ以上）】



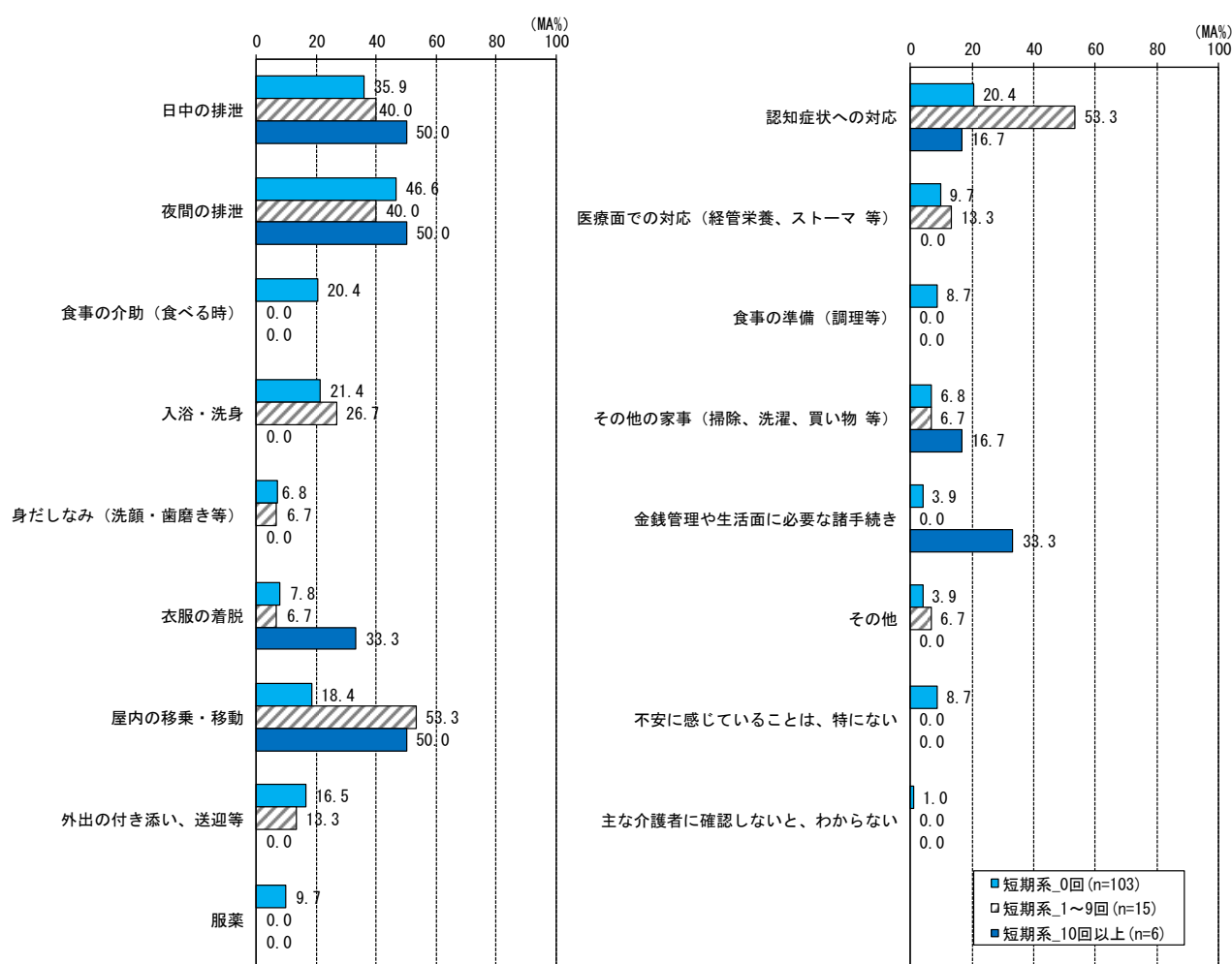
●短期系サービスの利用状況（要介護3以上）

【全体】

短期系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「食事の介助（食べる時）」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「食事の準備（調理等）」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

一方で、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は、不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（短期系サービス利用回数別・要介護3以上）】



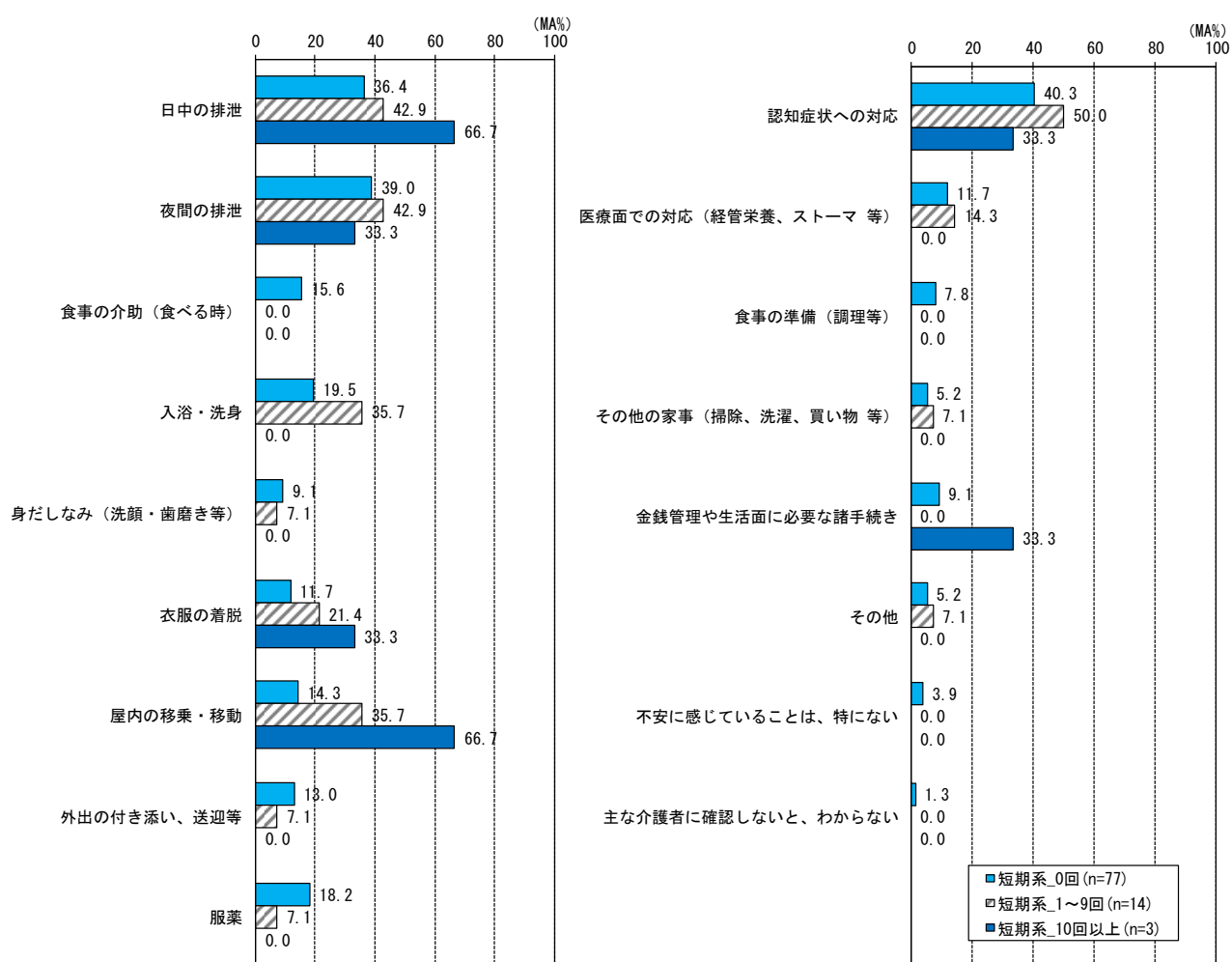
●短期系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

【全体】

短期系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「食事の介助（食べる時）」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」、「食事の準備（調理等）」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。

一方で、「日中の排泄」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」では、不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

【介護者が不安に感じる介護（短期系サービス利用回数別・認知症自立度Ⅲ以上）】



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

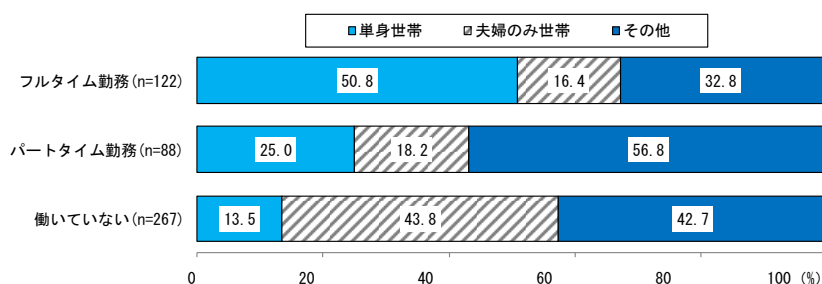
① 介護者の就労状況

●世帯類型

【フルタイム勤務】

「単身世帯」が50.8%となっています。

【世帯類型（勤務形態別）】



●主な介護者

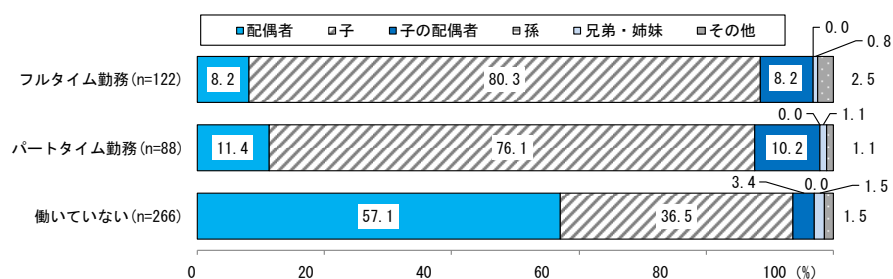
【フルタイム勤務・パートタイム勤務】

「子」が約8割と多くなっています。

【働いていない】

「配偶者」が約6割と多くなっています。

【主な介護者（勤務形態別）】

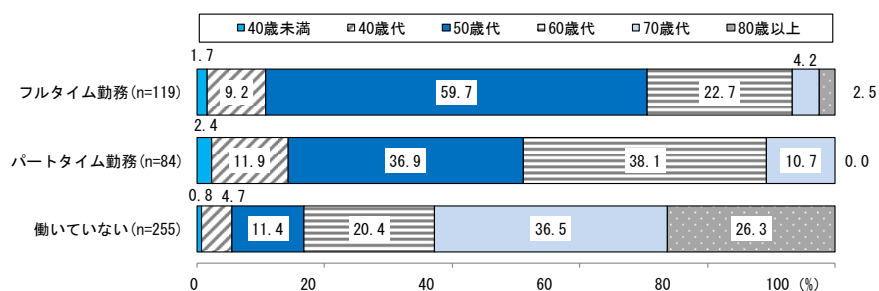


●主な介護者の年齢

【全体】

就労時間が短くなるにつれて、主な介護者の年齢が高くなる傾向がみられます。

【主な介護者の年齢（勤務形態別）】



●主な介護者の性別

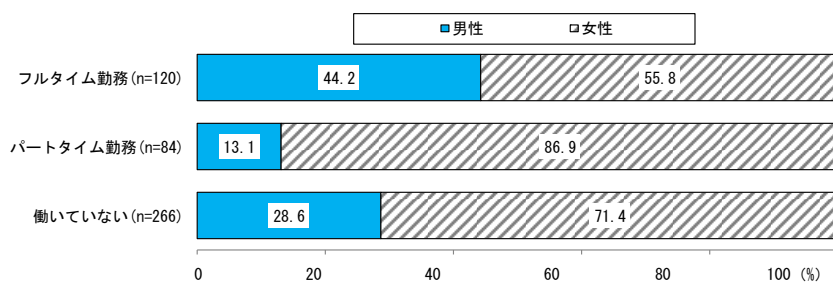
【全体】

いずれの就労状況でも、「女性」が多くなっています。

【パートタイム勤務】

「女性」が86.9%と多くなっています。

【主な介護者の性別（勤務形態別）】



●本人の要介護度

【全体】

就労時間が長くなるにつれて、重度な要介護者が少なくなる傾向がみられます。

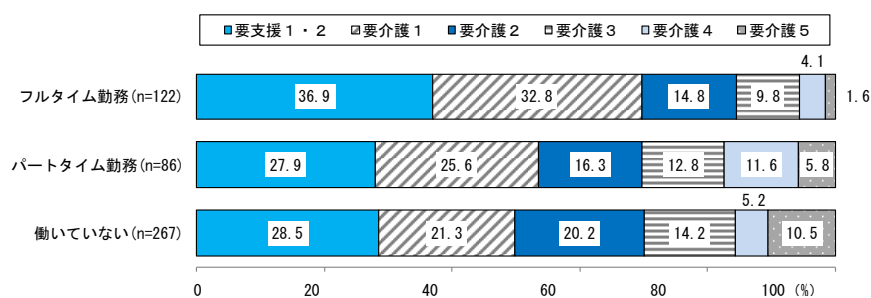
【フルタイム勤務】

“要介護3以上”が15.5%となっています。

【パートタイム勤務】

“要介護3以上”が30.2%となっています。

【本人の要介護度（勤務形態別）】

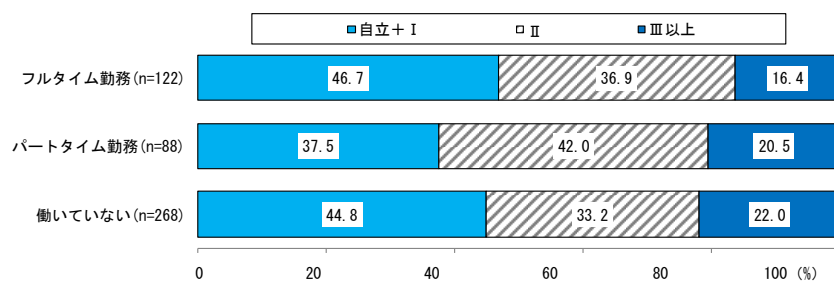


●本人の認知症自立度

【全体】

就労時間が長くなるにつれて、自立度Ⅲ以上の要介護者が少なくなる傾向がみられます。

【本人の認知症自立度（勤務形態別）】

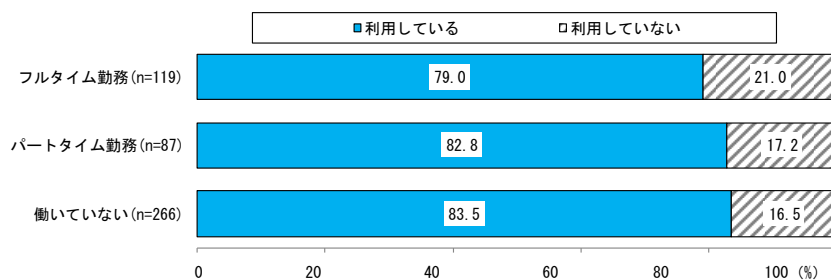


●介護保険サービスの利用有無

【全体】

就労時間が長くなるにつれて、「利用していない」が多くなる傾向がみられます。

【介護保険サービスの利用有無（勤務形態別）】

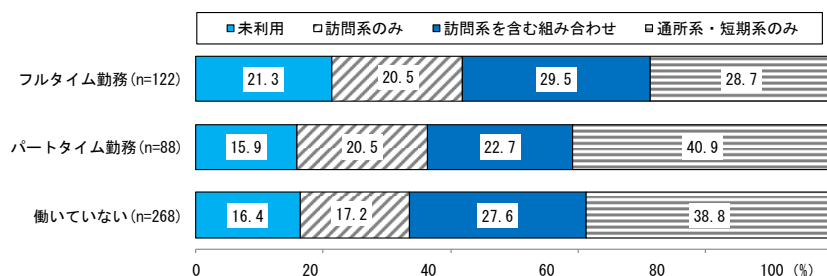


●サービス利用の組み合わせ

【フルタイム勤務】

訪問系サービスの利用が約5割と多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ（勤務形態別）】



② 介護者の就労継続見込み

●介護のための働き方の調整

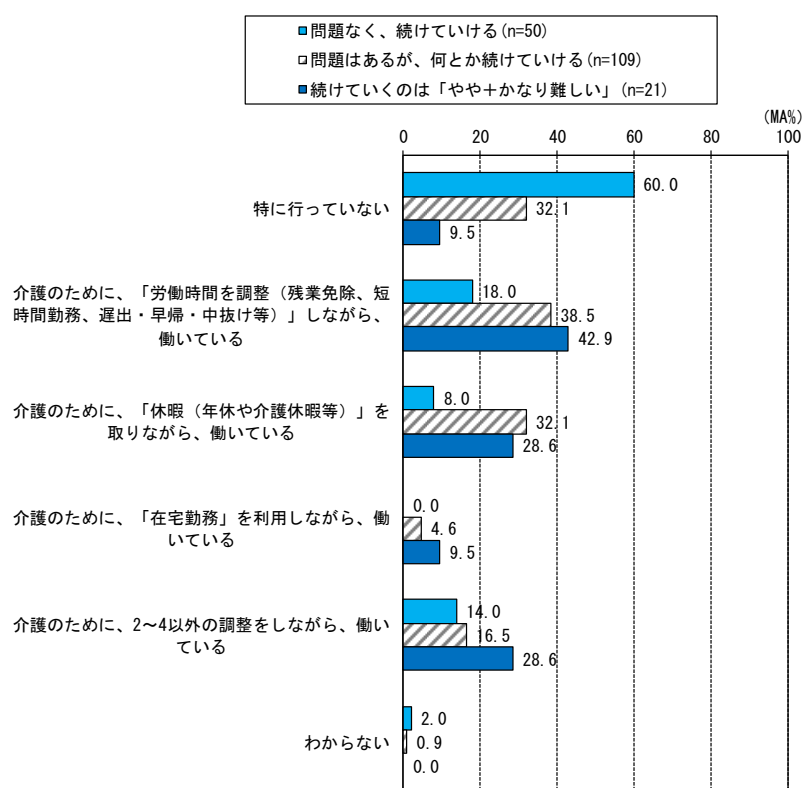
【全体】

就労継続が困難になるにつれて、「特に行っていない」が少なくなる傾向がみられます。

【続けていくのは、「やや+かなり難しい」】

「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が多くなっています。

【介護のための働き方の調整（就労継続見込み別）】



●勤め先から必要な支援

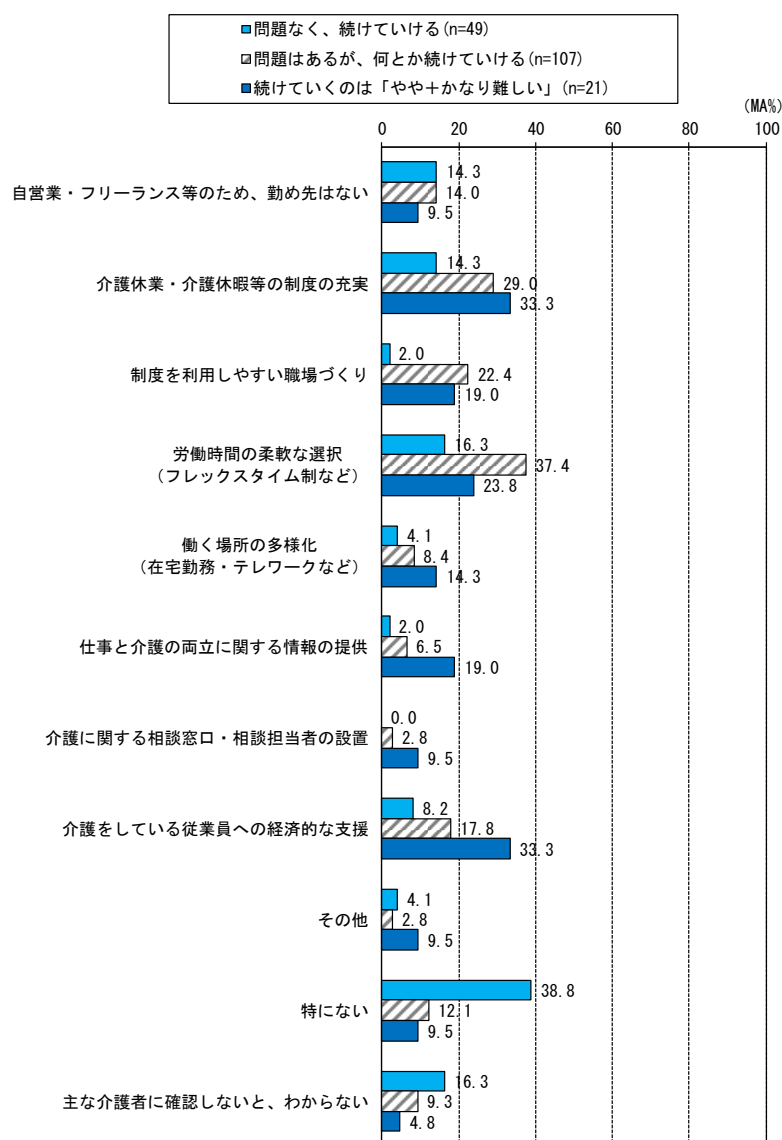
【全体】

就労継続が困難になるにつれて、「特にない」が少なくなる傾向がみられます。

【続けていくのは、「やや+かなり難しい」】

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が多くなっています。

【勤め先から必要な支援（就労継続見込み別）】



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

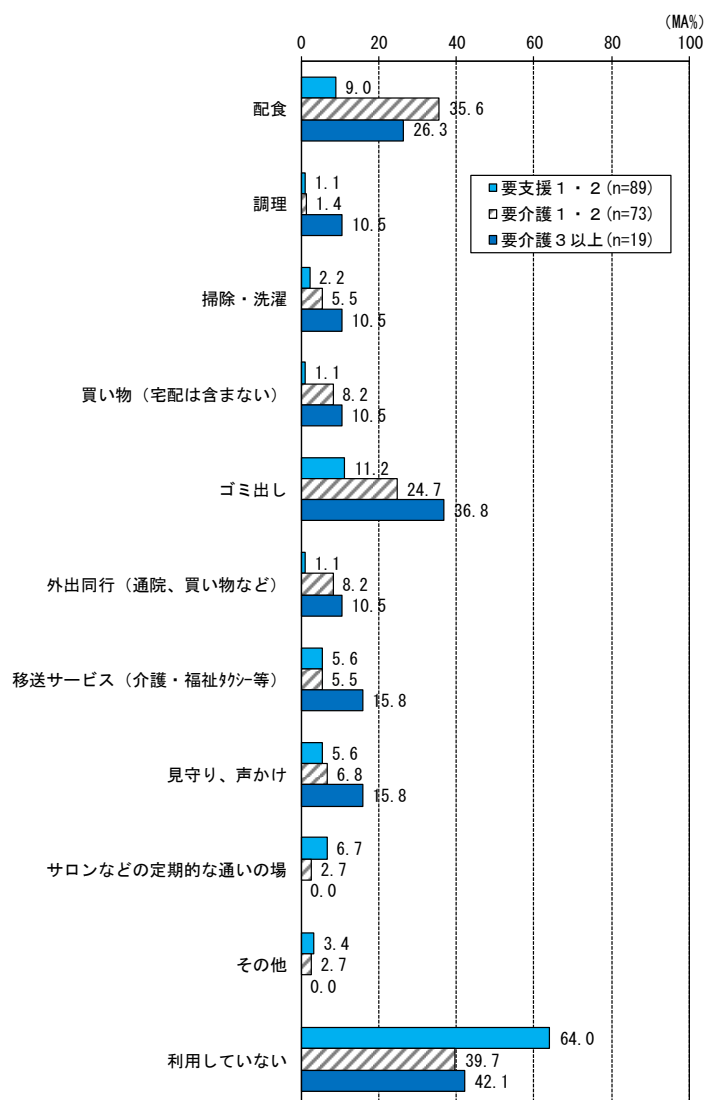
① 保険外の支援・サービスの利用状況

●単身世帯

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、「サロンなどの定期的な通いの場」を除く支援・サービスの利用が多くなる傾向がみられます。

【保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】



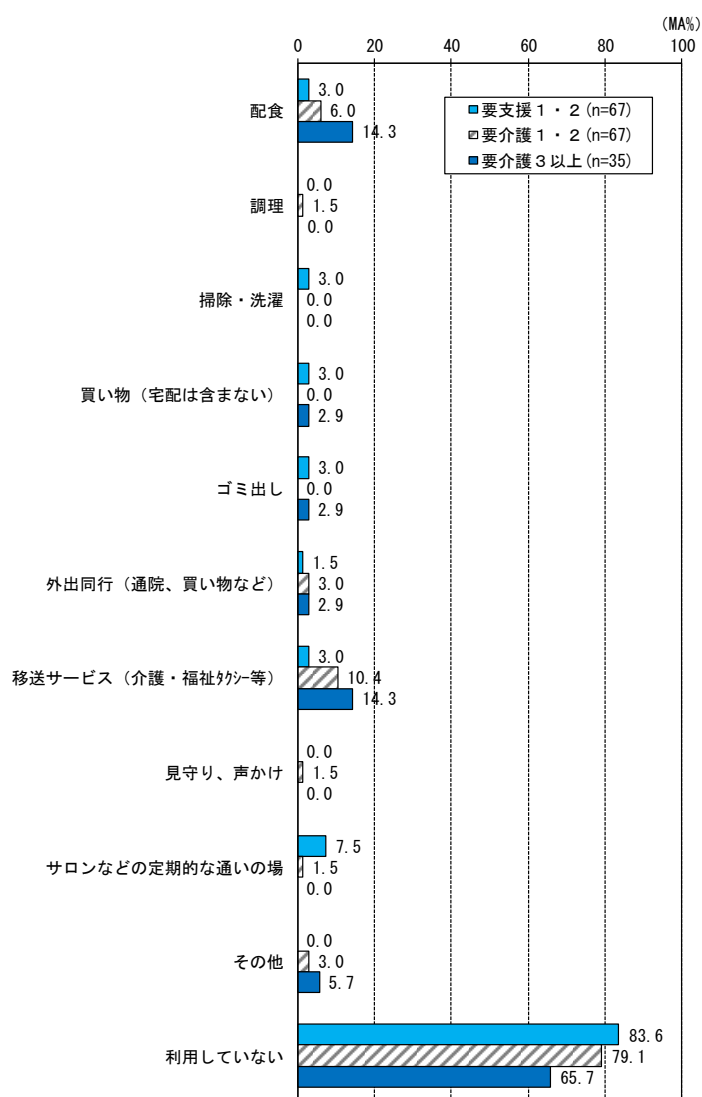
●夫婦のみ世帯

【全体】

単身世帯と比較すると、「利用していない」が多くなっています。

要介護度が高くなるにつれて、「配食」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の利用が多くなる傾向がみられます。

【保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】



●その他世帯

【全体】

他の世帯類型と比較すると、重度な要介護者でも「利用していない」が多くなっています。

【保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】



② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

●単身世帯

【全体】

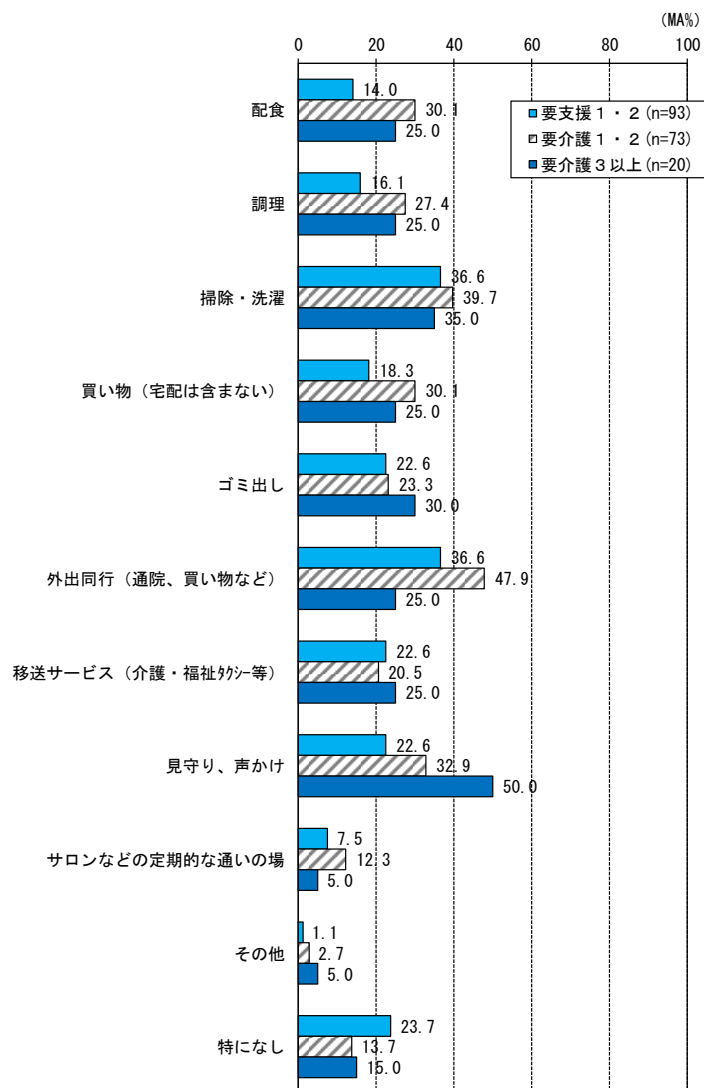
いずれの要介護度でも、「掃除・洗濯」が多くなっています。

要介護度が高くなるにつれて、「配食」、「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」が必要な人が多くなる傾向がみられます。

【要支援１・２、要介護１・２】

「外出同行（通院、買い物など）」が多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス（単身世帯）】



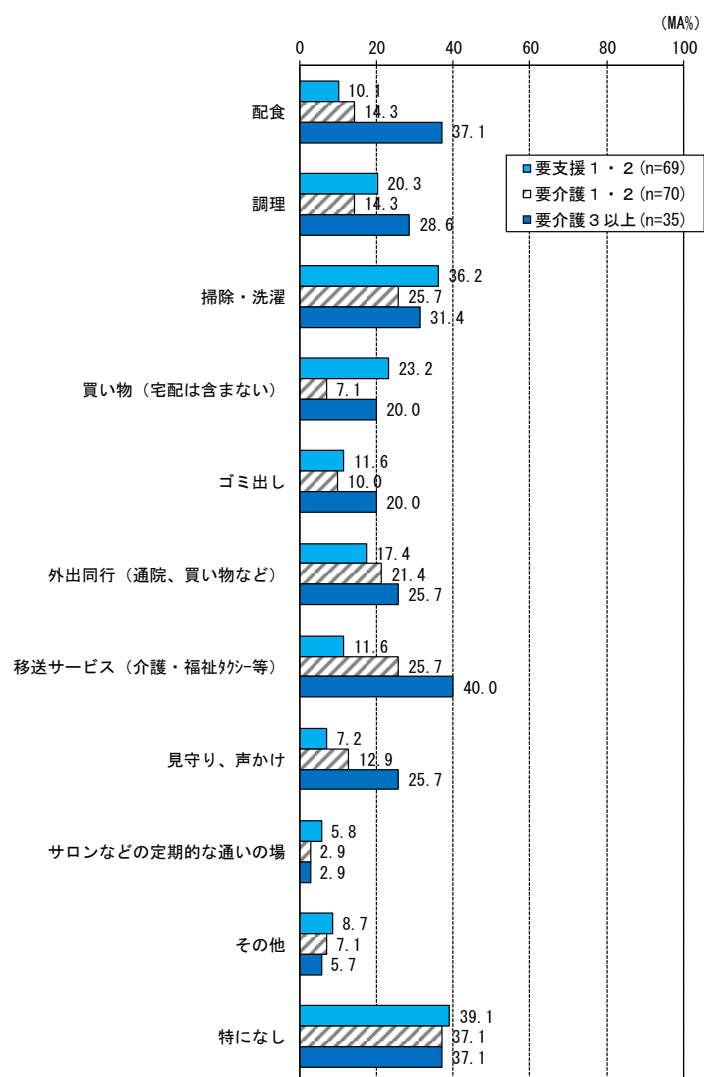
●夫婦のみ世帯

【全体】

単身世帯と比較すると、「特になし」が多くなっています。

要介護度が高くなるにつれて、「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り・声かけ」を必要とする人が多くなる傾向がみられます。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス（夫婦のみ世帯）】



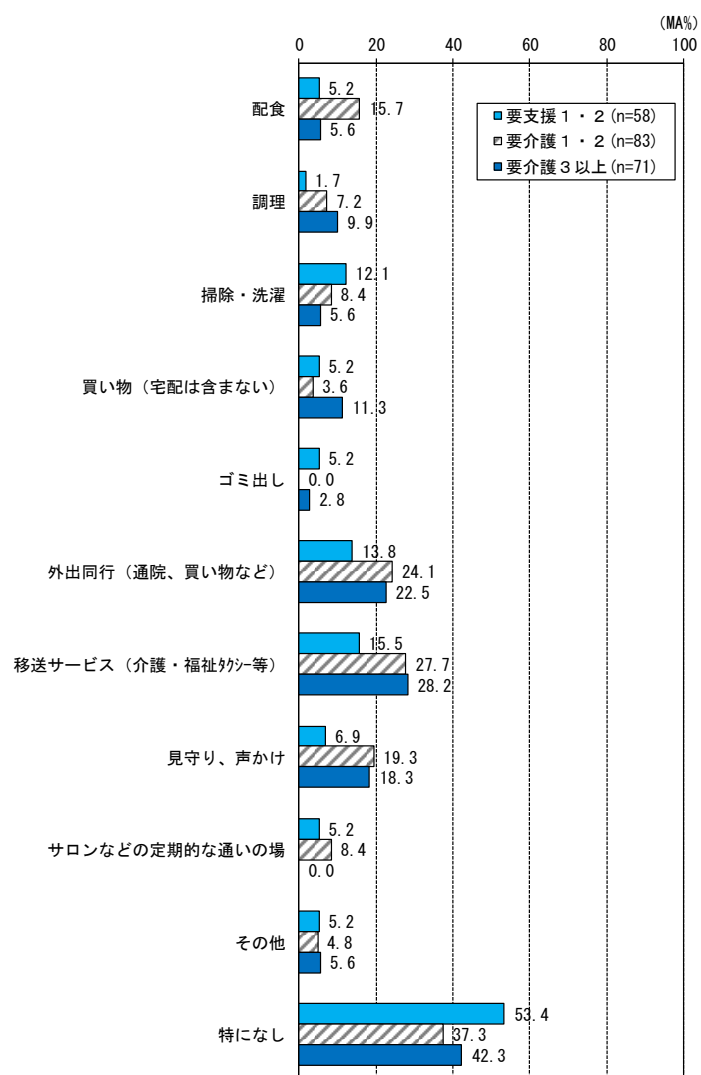
●その他世帯

【全体】

他の世帯類型と比較すると、「特になし」が多くなっています。

いずれの要介護度でも、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス（その他世帯）】



(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

① 要介護度と世帯類型

●要介護度別・世帯類型

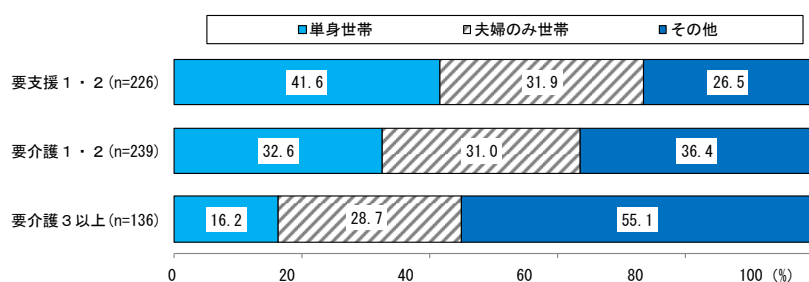
【全体】

要介護度が高くなるにつれて、同居世帯が多くなる傾向がみられます。

【要介護3以上】

単身世帯が16.2%となっています。

【世帯類型（要介護度別）】



●世帯類型別・要介護度

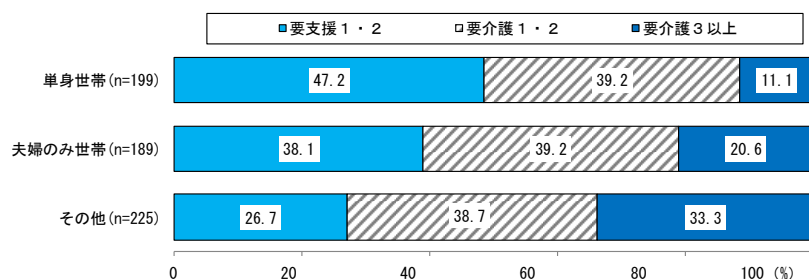
【全体】

同居人数が多くなるにつれて、重度な要介護者が多くなる傾向がみられます。

【単身世帯】

要介護3以上が11.1%となっています。

【要介護度（世帯類型別）】



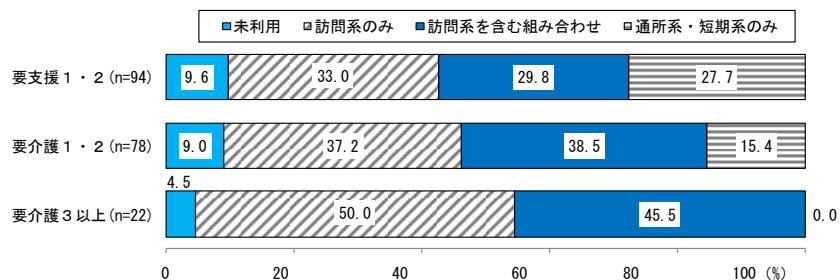
② サービス利用の組み合わせ

●単身世帯

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。
他の世帯類型と比較すると、訪問系サービスの利用が多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ（要介護度別・単身世帯）】

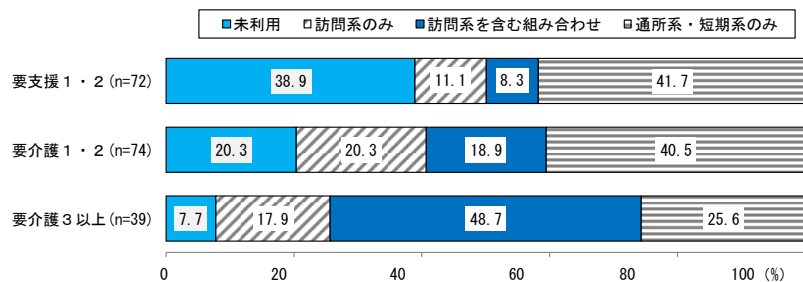


●夫婦のみ世帯

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。
単身世帯と比較すると、「未利用」、「通所系・短期系のみ」が多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ（要介護度別・夫婦のみ世帯）】



●その他世帯

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。

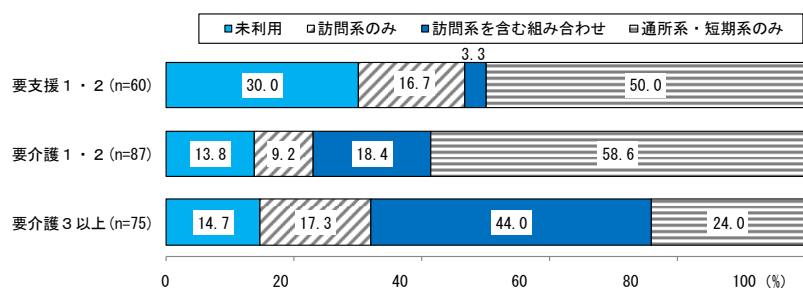
【要支援１・２、要介護１・２】

他の世帯類型と比較すると、「通所系・短期系のみ」が多くなっています。

【要介護３以上】

他の世帯類型と比較すると、「未利用」が多くなっています。

【サービス利用の組み合わせ（要介護度別・その他世帯）】



③ 施設等への入所・入居の検討状況

●単身世帯

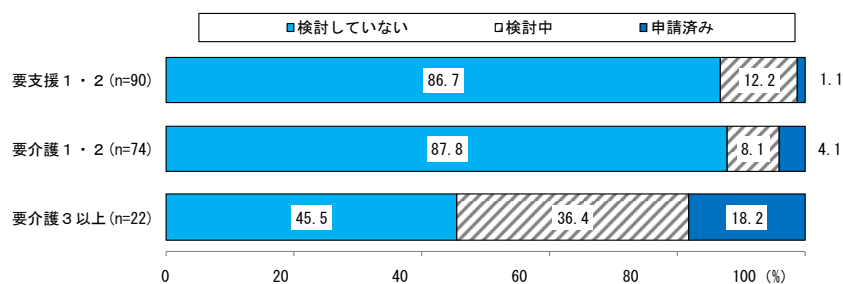
【全体】

他の世帯類型と比較すると、「検討中」、「申請済み」が多くなっています。

【要介護３以上】

「検討していない」が45.5%となっています。

【施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・単身世帯）】



●夫婦のみ世帯

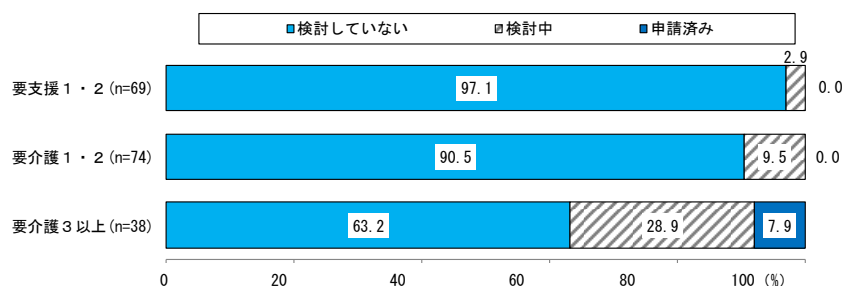
【要支援１・２、要介護１・２】

「申請済み」が 0.0%となっています。

【要介護３以上】

単身世帯と比較すると、「検討していない」が多くなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・夫婦のみ世帯）】



●その他世帯

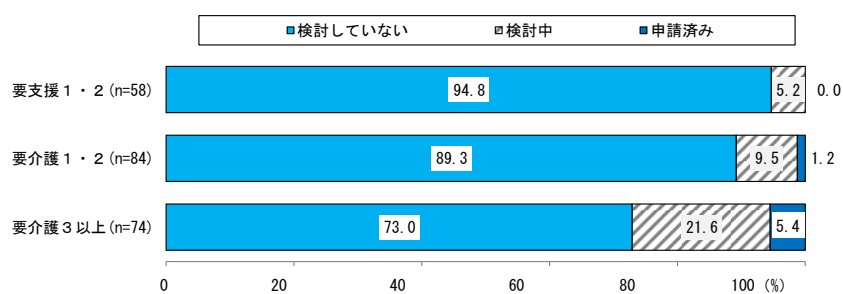
【要支援１・２】

「申請済み」が 0.0%となっています。

【要介護３以上】

他の世帯類型と比較すると、「検討していない」が多くなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況（要介護度別・その他世帯）】



(5) 医療ニーズのある在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

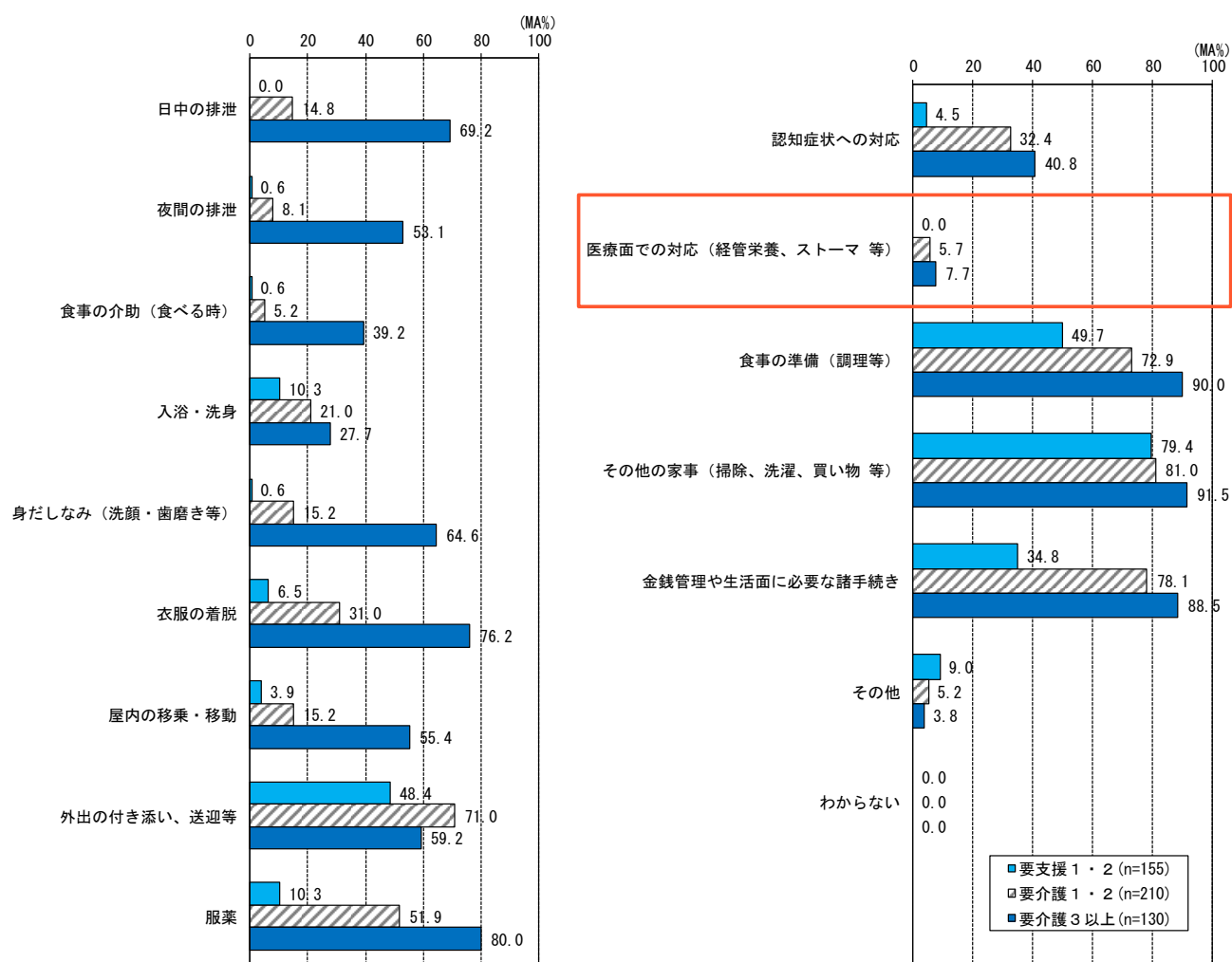
① 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）

●要介護度

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」を行っている介護者が多くなる傾向がみられます。

【主な介護者が行っている介護（要介護度別）】

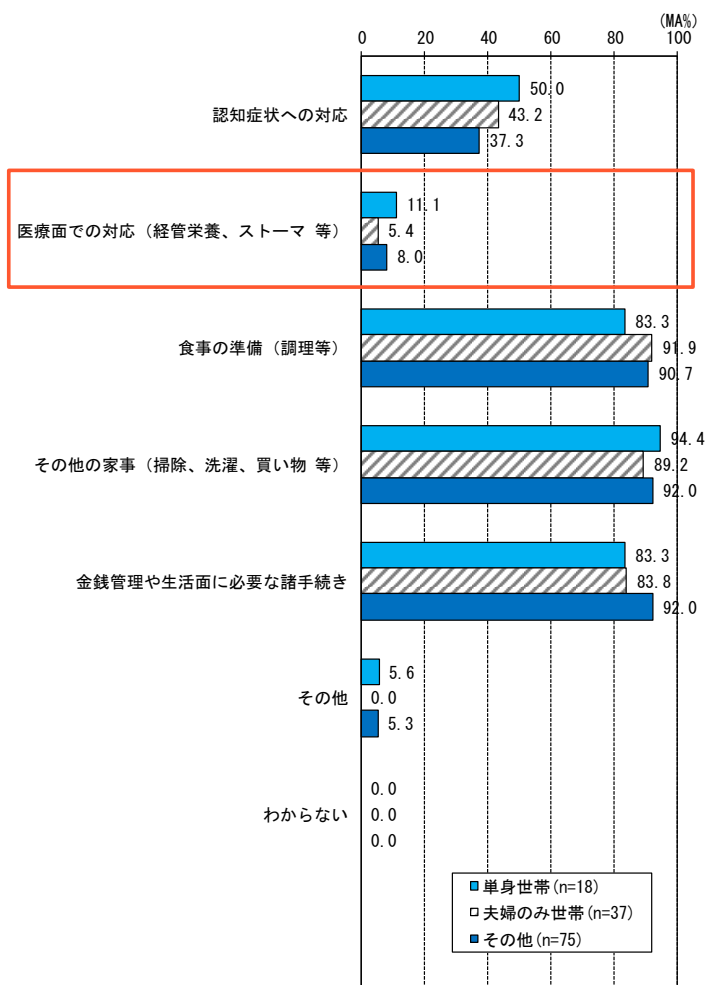
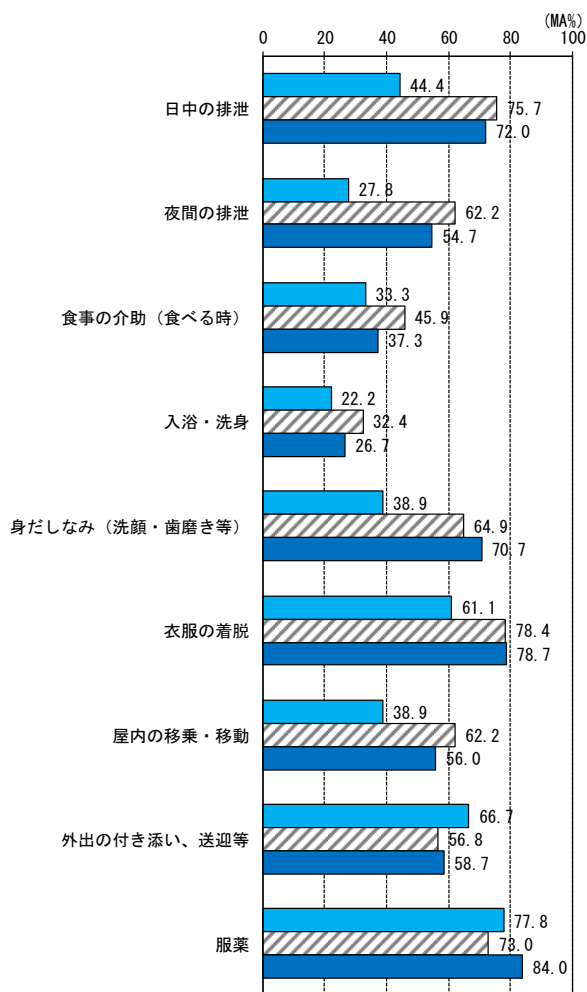


●世帯類型

【単身世帯】

他の世帯類型と比較すると、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」を行っている介護者が多くなっています。

【主な介護者が行っている介護（世帯類型別）】



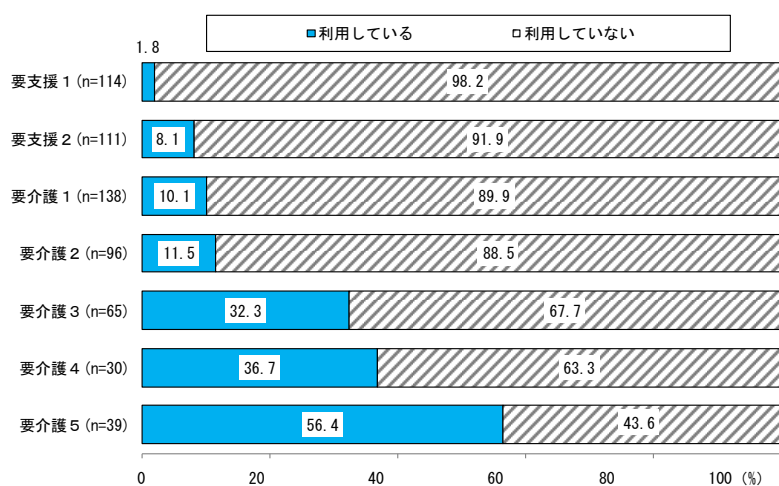
② 訪問診療の利用有無

●要介護度

【全体】

要介護度が高くなるにつれて、「利用している」が多くなる傾向がみられます。

【訪問診療の利用有無（要介護度別）】

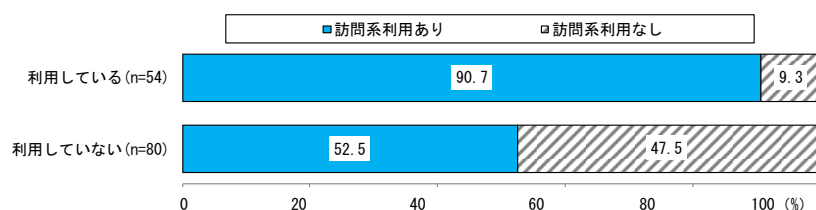


●訪問系サービスの利用有無（要介護３以上）

【（訪問診療を）利用している】

「訪問系利用あり」が90.7%となっています。

【訪問系サービスの利用有無（訪問診療の利用有無別・要介護３以上）】

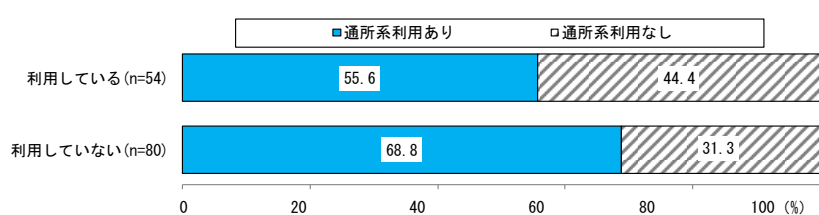


●通所系サービスの利用有無（要介護３以上）

【（訪問診療を）利用している】

「通所系利用あり」が55.6%となっています。

【通所系サービスの利用有無（訪問診療の利用有無別・要介護３以上）】

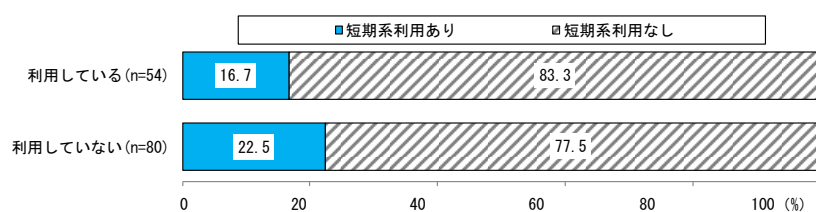


●短期系サービスの利用有無（要介護３以上）

【（訪問診療を）利用している】

「短期系利用あり」が16.7%となっています。

【短期系サービスの利用有無（訪問診療の利用有無別・要介護３以上）】



(6) 家族介護に対する支援・サービスの提供体制の検討

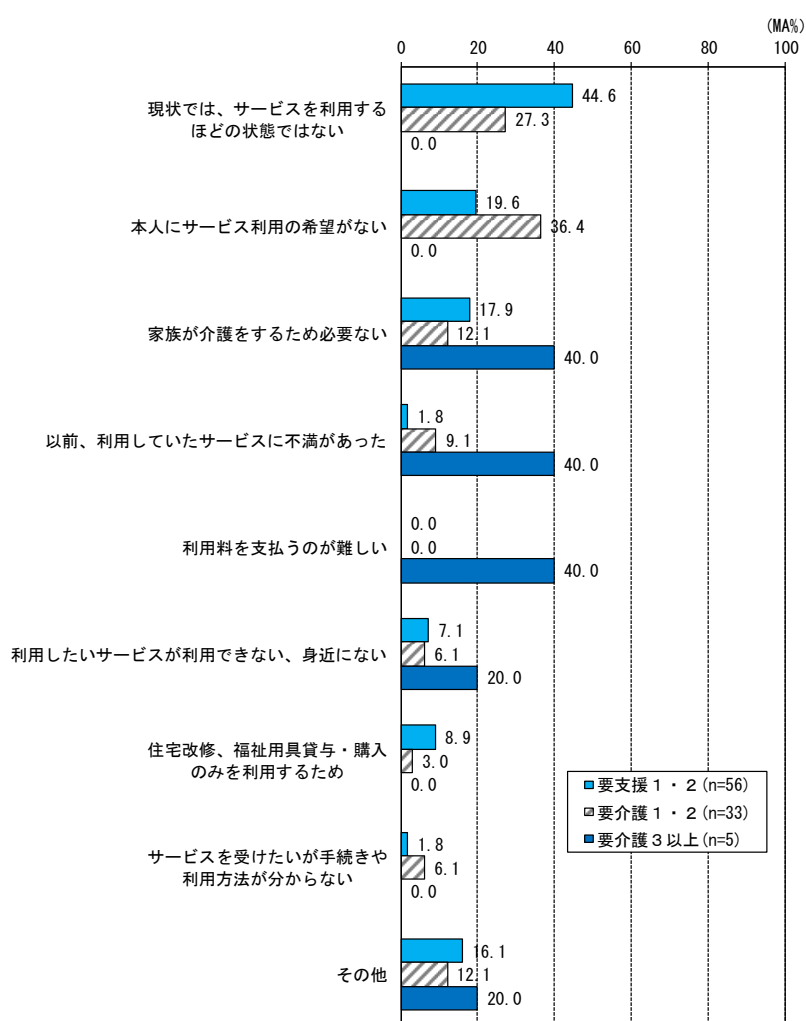
① 介護サービス未利用理由

●要介護度

【要介護3以上】

「家族が介護するため必要ない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」が多くなっています。

【介護サービス未利用理由（要介護度別）】



② 主な介護者の年齢

● 調査対象者本人の年齢

【65 歳未満、65～69 歳、70 歳代】

要介護者と同世代が多くなっています。

【80 歳代、90 歳以上】

要介護者の子どもにあたる世代が多くなっています。

【主な介護者の年齢（調査対象者本人の年齢別）】

